

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄							備考	
計画の区分	学部の設置								
フリガナ設置者	ガッコウホウジンオオサカケイザイダイガク 学校法人大阪経済大学								
フリガナ大学の名称	オオサカケイザイダイガク 大阪経済大学								
大学本部の位置	大阪市東淀川区大隅二丁目2番8号								
大学の目的	本学は、教育基本法にのっとり、学校教育法の規定するところにしたがい、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的および応用的能力を展開させ、人間性豊かな実学教育の成果をあげることによって、社会の発展に寄与することを目的とする。								
新設学部等の目的	国内外の地域が抱える社会・経済課題に対応するために、多様な価値観や文化への関心をもち、地域性を考慮したグローバルな視点とローカルな視点を合わせ持つ多面的な見方・考え方によって、新たな解決に貢献できるグローバル人材を養成することを目的とする。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	国際共創学部	年	人	年次人	人		年 月 第 年次		
	国際共創学科	4	120	—	480	学士（国際共創）	令和6年4月 第1年次	大阪市東淀川区大隅二丁目2番8号	
計		120	—	480					
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	該当なし								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	国際共創学部 国際共創学科	講義	演習	実験・実習	計	124 単位			
		222科目	14科目	10科目	246科目				
教員	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	
	新設分	国際共創学部 国際共創学科	11人 (11)	3人 (3)	4人 (4)	0人 (0)	18人 (18)	0人 (0)	170人 (146)
		計	11 (11)	3 (3)	4 (4)	0 (0)	18 (18)	0 (0)	— (—)
	既設	経済学部 経済学科	28 (28)	22 (19)	5 (7)	0 (0)	55 (54)	0 (0)	237 (237)
		経営学部 第1部経営学科	11 (11)	11 (11)	9 (9)	0 (0)	31 (31)	0 (0)	225 (225)
		経営学部 第1部ビジネス法学科	8 (8)	5 (5)	2 (2)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	248 (248)
		経営学部 第2部経営学科	3 (3)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	271 (271)
		情報社会学部 情報社会学科	15 (15)	8 (8)	5 (5)	0 (0)	28 (28)	0 (0)	250 (250)
		人間科学部 人間科学科	15 (15)	6 (6)	5 (5)	0 (0)	26 (26)	0 (0)	244 (244)
概要	教育・学習支援センター	1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	
	計	81 (81)	54 (51)	27 (29)	0 (0)	162 (161)	0 (0)	— (—)	
合計		92 (92)	57 (54)	31 (33)	0 (0)	180 (179)	0 (0)	— (—)	

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計					
	事 務 職 員		164 人 (160)	0 人 (0)	164 人 (160)					
	技 術 職 員		0 (0)	0 (0)	0 (0)					
	図 書 館 専 門 職 員		4 (4)	0 (0)	4 (4)					
	そ の 他 の 職 員		0 (0)	0 (0)	0 (0)					
	計		168 (164)	0 (0)	168 (164)					
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体 【借地】 摂津：永田ミツ2,414㎡ (期間H31.3～30年間) ※運動場用地 別地 摂津：バス約10分 茨木：徒歩12分+電車準 急7分+バス30分				
	校 舎 敷 地	39,287.85 ㎡	— ㎡	— ㎡	39,287.85 ㎡					
	運 動 場 用 地	76,912.65 ㎡	— ㎡	— ㎡	76,912.65 ㎡					
	小 計	116,200.50 ㎡	— ㎡	— ㎡	116,200.50 ㎡					
	そ の 他	1,014.71 ㎡	— ㎡	— ㎡	1,014.71 ㎡					
	合 計	117,215.21 ㎡	— ㎡	— ㎡	117,215.21 ㎡					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体				
		59,040.17 ㎡ (59,040.17 ㎡)	— ㎡ (— ㎡)	— ㎡ (— ㎡)	59,040.17 ㎡ (59,040.17 ㎡)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	94 室	30 室	10 室	28 室 (補助職員13人)	— 室 (補助職員一人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数						
		国際共創学部 国際共創学科		18 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	学部単位での特定不能のため、 大学全体の数		
	国際共創学部 国際共創学科	618,144 [195,827] (600,488 [194,903])	7,872 [2,606] (7,872 [2,606])	2,126 [2,034] (2,126 [2,034])	28,604 (28,604)	28,280 (28,280)	7 (7)			
	計	618,144 [195,827] (600,488 [194,903])	7,872 [2,606] (7,872 [2,606])	2,126 [2,034] (2,126 [2,034])	28,604 (28,604)	28,280 (28,280)	7 (7)			
図 書 館		面積		閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数			大学全体		
		4,906.86 ㎡		897	1,000,000冊					
体 育 館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体		
		5,651.41 ㎡		クラブハウス						
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	大学全体 図書購入費には電子ジャーナル・データベースの整備費(運用コストを含む)を含む。
		教員1人当り研究費等		570千円	570千円	570千円	570千円	—	—	
		共同研究費等		10,140千円	10,140千円	10,140千円	10,140千円	—	—	
		図書購入費	149,498千円	100,000千円	100,000千円	100,000千円	100,000千円	—	—	
	設備購入費	272,652千円	272,652千円	272,652千円	272,652千円	272,652千円	—	—		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
		1,213千円	1,223千円	1,223千円	1,224千円	—千円	—千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入等							

大学等の名称	大阪経済大学								所在地	
	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度			
既設大学等の状況	経済学部						1.01			
	経済学科	4	680	-	2,030	学士(経済学)	0.98	昭和24年度	大阪市東淀川区 大隅二丁目2番8号	※令和5年度入学定員増(230人)
	地域政策学科	4	-	-	450	学士(経済学)	-	平成14年度		※令和5年度より学生募集停止(地域政策学科)
	経営学部第1部						1.02			
	経営学科	4	430	-	1,420	学士(経営学)	1.02	昭和39年度		※令和5年度入学定員増(100人)
	ビジネス法学科	4	200	-	740	学士(経営学)	1.03	平成16年度		※令和5年度入学定員増(20人)
	経営学部第2部						1.03			
	経営学科	4	50	-	400	学士(経営学)	1.03	昭和39年度		※令和5年度入学定員減(60人) ※令和5年度3年次編入学定員減(△20人)
	情報社会学部						1.06			
	情報社会学科	4	300	-	1,050	学士(情報社会学)	1.06	平成24年度		※令和5年度入学定員増(50人)
	人間科学部						1.10			
	人間科学科	4	200	-	725	学士(人間科学)	1.10	平成14年度		※令和5年度入学定員増(25人)
	経済学研究科									
	経済学専攻(博士前期課程)	2	10	-	20	修士(経済学)	0.40	昭和41年度		
	経済学専攻(博士後期課程)	3	5	-	15	博士(経済学)	0.20	昭和43年度		
	経営学研究科									
	経営学専攻(修士課程)	2	50	-	100	修士(経営学)	1.04	平成17年度		
	経営情報研究科									
	経営情報専攻(修士課程)	2	20	-	40	修士(経営情報)	0.47	平成15年度		
	人間科学研究科									
臨床心理学専攻(修士課程)	2	10	-	20	修士(臨床心理学)	0.60	平成18年度			
人間共生専攻(修士課程)	2	10	-	20	修士(人間共生)	0.40	平成18年度			
附属施設の概要	該当なし									

教育課程等の概要															
(国際共創学部国際共創学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
全学共通科目 外国語科目 必修外国語科目	英語Ⅰa [R&W]	1前	1			○								兼4	
	英語Ⅰb [L&S]	1前	1			○			1					兼3	
	英語Ⅱa [R&W]	1後	1			○								兼4	
	英語Ⅱb [L&S]	1後	1			○			1					兼3	
	英語Ⅲa [R&W]	2前		1		○								兼1	
	英語Ⅲb [L&S]	2前		1		○								兼1	
	英語Ⅳa [R&W]	2後		1		○								兼1	
	英語Ⅳb [L&S]	2後		1		○								兼1	
	フランス語Ⅰa [講読]	1前		1		○									兼4
	フランス語Ⅰb [文法]	1前		1		○									兼3
	フランス語Ⅱa [講読]	1後		1		○									兼4
	フランス語Ⅱb [文法]	1後		1		○									兼4
	フランス語Ⅲa [講読]	2前		1		○									兼2
	フランス語Ⅲb [文法]	2前		1		○									兼2
	フランス語Ⅳa [講読]	2後		1		○									兼2
	フランス語Ⅳb [文法]	2後		1		○									兼2
	ドイツ語Ⅰa [講読]	1前		1		○									兼3
	ドイツ語Ⅰb [文法]	1前		1		○									兼4
	ドイツ語Ⅱa [講読]	1後		1		○									兼3
	ドイツ語Ⅱb [文法]	1後		1		○									兼4
	ドイツ語Ⅲa [講読]	2前		1		○									兼2
	ドイツ語Ⅲb [文法]	2前		1		○									兼2
	ドイツ語Ⅳa [講読]	2後		1		○									兼2
	ドイツ語Ⅳb [文法]	2後		1		○									兼1
	スペイン語Ⅰa [講読]	1前		1		○									兼5
	スペイン語Ⅰb [文法]	1前		1		○									兼5
	スペイン語Ⅱa [講読]	1後		1		○									兼5
	スペイン語Ⅱb [文法]	1後		1		○									兼5
	スペイン語Ⅲa [講読]	2前		1		○									兼2
	スペイン語Ⅲb [文法]	2前		1		○									兼2
	スペイン語Ⅳa [講読]	2後		1		○									兼1
	スペイン語Ⅳb [文法]	2後		1		○									兼2
	中国語Ⅰa	1前		1		○									兼10
	中国語Ⅰb	1前		1		○									兼11
	中国語Ⅱa	1後		1		○									兼10
	中国語Ⅱb	1後		1		○									兼11
	中国語Ⅲa	2前		1		○									兼3
	中国語Ⅲb	2前		1		○									兼3
	中国語Ⅳa	2後		1		○									兼3
	中国語Ⅳb	2後		1		○									兼3
	朝鮮語Ⅰa	1前		1		○									兼5
	朝鮮語Ⅰb	1前		1		○									兼4
	朝鮮語Ⅱa	1後		1		○									兼5
	朝鮮語Ⅱb	1後		1		○									兼4
朝鮮語Ⅲa	2前		1		○									兼1	
朝鮮語Ⅲb	2前		1		○									兼2	
朝鮮語Ⅳa	2後		1		○									兼1	
朝鮮語Ⅳb	2後		1		○									兼2	
日本語Ⅰa	1前		1		○									兼1	
日本語Ⅰb	1前		1		○									兼1	
日本語Ⅱa	1後		1		○									兼1	
日本語Ⅱb	1後		1		○									兼1	
日本語Ⅲa	2前		1		○									兼1	
日本語Ⅲb	2前		1		○									兼1	

教育課程等の概要															
(国際共創学部国際共創学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
外国語科目	必修外国語科目	日本語Ⅳ a	2後	1		○									兼1
		日本語Ⅳ b	2後	1		○									兼1
		日本語Ⅴ a	3前	1		○									兼1
		日本語Ⅴ b	3前	1		○									兼1
		日本語Ⅵ a	3後	1		○									兼1
		日本語Ⅵ b	3後	1		○									兼1
	選択外国語科目	TOE I C I	2前		2		○								兼5
		TOE I C II	2後		2		○								兼5
		TOE I C III	2後		2		○								兼1
		英語コミュニケーションⅠ	2前		2		○								兼5
		英語コミュニケーションⅡ	2後		2		○								兼5
		ビジネス英語Ⅰ	2前		2		○								兼3
		ビジネス英語Ⅱ	2後		2		○								兼3
		フランス語演習	2前		2		○								兼2
ドイツ語演習	2前		2		○								兼1		
中国語演習	2前		2		○								兼4		
スペイン語演習	2前		2		○								兼1		
朝鮮語演習	2前		2		○								兼1		
語学研修	2後		2				○						兼3		
小計（73科目）		—	4	82	0	—			1	0	0	0	0	兼72	
全学共通科目	①思想と文化	哲学入門	1前		2		○							兼2	
		現代と哲学	1後		2		○							兼2	
		心理学入門	1前		2		○							兼4	
		現代の心理学	1後		2		○							兼4	
		倫理学入門	1前		2		○							兼2	
		現代の倫理	1後		2		○							兼2	
		現代と宗教	1後		2		○							兼1	
		人文地理学	2前		2		○							兼2	
		教育学入門	1前		2		○							兼1	
		現代と教育	1後		2		○							兼1	
	芸術学入門	1前		2		○							兼1		
	美術史	2前		2		○							兼1		
	日本文化論	1前		2		○					1		兼1		
	日本語表現	1前		2		○							兼2		
	文学入門	1前		2		○							兼3		
	日本の文学	1後		2		○							兼3		
	中国の文学	2前		2		○							兼1		
	欧米の文学	2後		2		○							兼1		
	②歴史と社会	歴史学入門	1前		2		○								兼3
		日本の歴史	1後		2		○								兼2
アジアの歴史		2前		2		○								兼1	
ヨーロッパの歴史		2後		2		○								兼1	
政治学入門		1前		2		○								兼1	
現代の政治		1後		2		○								兼1	
法学入門		1前		2		○								兼2	
現代の法		2前		2		○								兼1	
日本の憲法		1後		2		○								兼1	
経済学入門		1前		2		○								兼1	
現代の日本経済	1後		2		○								兼1		
経営学入門	1前		2		○								兼1		
現代のビジネス	1後		2		○								兼1		
社会学入門	1前		2		○								兼2		
現代社会論	1後		2		○								兼2		
考古学	2後		2		○								兼1		
民俗学	2後		2		○								兼1		
大阪の経済と文化	2後		2		○								兼1		
大阪経済大学の歴史	1前		2		○								兼1		

教育課程等の概要																
(国際共創学部国際共創学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
全学共通科目	③ スポーツ健康とツ	スポーツ実技A	1前	1					○						兼1	
		スポーツ実技B	1後	1					○						兼1	
		スポーツの理論	1前・後	2			○								兼3	
		レクリエーションの理論	1前・後	2			○								兼1	
		健康増進の理論	1前・後	2			○								兼6	
	④ 自然と生活	地理学入門	1前	2			○								兼2	
		地誌	1後	2			○								兼1	
		数学入門	1前	2			○								兼2	
		現代の数学	1後	2			○								兼2	
		物理学入門	1前	2			○								兼1	
		現代と物理学	1後	2			○								兼1	
		化学入門	1前	2			○								兼1	
		現代と化学	1後	2			○								兼1	
		宇宙の科学	2前	2			○								兼1	
		地球の科学	2後	2			○								兼1	
	自然地理学	2前	2			○								兼1		
	生物学入門	1前	2			○								兼1		
	⑤ タエとデサン数 イス理	データサイエンス概論	1前	2			○								兼3	
		統計学入門	1前	2			○								兼1	
		現代と統計	1後	2			○								兼1	
	⑥ キャリア科目形成	キャリアデザイン	1前	2			○								兼2	
インターンシップ		3前	2						○					兼2 ※講義		
プレゼンテーション入門		2後	2			○								兼2		
論理的思考入門		2前	2			○								兼2		
日本語表現演習（書き方）		1前	2			○								兼3		
日本語表現演習（話し方）	1前	2			○								兼2			
⑦ 特殊義通講	共通特殊講義	1後	2			○								兼1		
小計（64科目）		—	0	126	0	—			0	0	1	0	0	兼73		
学科専攻科目	(A) 基盤科目	(1) 入門科目	必修①	国際共創入門	1前	2			○			4	1		オムニバス	
			経済学概論Ⅰ	1前	2			○			1					
			経済学概論Ⅱ	1後	2			○			1		1		兼1	オムニバス
			社会学概論	1前	2			○			1					
		選択必修	情報化社会と技術	1前	2			○			1					
			データ分析と活用	1後	2			○								兼1
			社会調査法入門	1前	2			○								兼1
	必修②	Development of Multicultural Awareness	1後	2					○			3		1		※講義 集中
		Basic English A	1前	2			○			1					兼4	
		Basic English B	1後	2			○			1					兼4	
	(2) 基礎科目	必修	国際経済論	1後	2			○				1				
			国際社会論	1後	2			○					1			
		選択必修①	国際文化論	2前	2			○			1					
			グローバルビジネス基礎	2前	2			○			1					
選択必修②		経済情報分析	2後	2			○								兼1	
		Global Issues	2前	2			○			1						
小計（18科目）		—	18	18	0	—			8	2	2	0	0	兼8		
(B) 専門科目	(1) 基幹科目	選択必修①	文化人類学	2前	2			○								兼1
			宗教と社会	2後	2			○								兼1
			社会思想史	2前	2			○								兼1
			社会心理学	2前	2			○								兼1
			社会システム論	2後	2			○					1			
			国際社会と人権	2前	2			○			1					
			ジェンダーと法	2後	2			○								
			政治学	2後	2			○								兼1

教育課程等の概要																
（国際共創学部国際共創学科）																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
学科専攻科目	(1) 基幹科目	選択必修①	多文化コミュニケーション	2前	2		○									
			国際社会と日本文化	2前	2		○						1			兼1 オムニパス
			世界経済史	2前	2		○						1			兼1
			アジア経済論	2前	2		○									兼1
			日本経済論	2前	2		○									兼1
			グローバル企業論	2後	2		○									兼1
			アカウンティング	2後	2		○						1			兼1 メディア
		NGO・NPO論	2後	2		○					1					
		選択必修②	認知科学	2前	2		○									兼1
			クリエイティブシンキング	2前	2		○									兼1
			リーダーシップ論	2後	2		○									兼1
			キャリア開発論	2後	2		○						1			
		グローバル文化領域	多文化共生論	2後	2		○									兼1
			共生社会論	3前	2		○									兼1
	平和と紛争		3前	2		○						1				
	アジア文化論		3前	2		○						1				
	文化政策		3後	2		○									兼1	
	生活文化論		3後	2		○									兼1	
	現代文化論		3前	2		○									兼1	
	地域研究A		3前	2		○									兼1	
	地域研究B		3後	2		○						1				
	地域研究C		3後	2		○							1			
	国際社会領域		福祉社会論	3後	2		○									兼1
			メディアと社会	3後	2		○									兼1
			国際関係論	2後	2		○						1			
			国際社会と外交	3後	2		○									兼1
		国際開発論	3前	2		○						1				
		国際保健論	3後	2		○							1		兼1 集中	
		国際社会と教育	3後	2		○										
		国際協力論	3前	2		○						1				
	政策デザイン領域	環境と社会	3前	2		○						1				
		公共政策	2後	2		○							1			
		環境政策	3前	2		○									兼1	
		まちづくり論	3前	2		○						1				
		都市デザイン論	3後	2		○									兼1	
		環境デザイン論	3後	2		○						1				
		アートマネジメント	3後	2		○									兼1	
		地方創生論	3前	2		○						1				
		中小企業政策	3後	2		○						1				
		ローカルガバナンス論	3後	2		○							1			
	社会創造領域	パブリックマネジメント	3前	2		○						1				
		社会ネットワーク論	3前	2		○									兼1	
		ボランティア論	3後	2		○									兼1	
		ソーシャルキャピタル論	2後	2		○						1				
		地域イノベーション	3後	2		○									兼1 集中	
		地域産業論	3前	2		○						1				
		情報産業論	3後	2		○						1				
		観光産業論	3後	2		○						1				
		ツーリズム論	3前	2		○						1				
		事業創造論	3前	2		○									兼1	
		社会的企業論	3後	2		○						1				
	小計（59科目）	—	0	118	0	—				9	3	4	0	0	兼25	

教育課程等の概要																
(国際共創学部国際共創学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
学科専攻科目	(1) 共創科目	グローバル・リサーチA	2前	2					○	2					※講義 集中	
		グローバル・リサーチB	2前	2					○	1	1				※講義 集中	
		ローカル・リサーチA	2前	2							2				※講義 集中	
		ローカル・リサーチB	2前	2							2				※講義 集中	
		国際共創プログラム	3前	2						2					※講義 集中	
		グローバルビジネス・スタディ	3前	2					○	1						
		ローカルビジネス・スタディ	3前	2					○	1						
	(2) 英語アドバンスト科目	Reading and Writing A	2前	2					○							兼1
		Reading and Writing B	2後	2					○							兼1
		Listening and Speaking A	2前	2					○							兼1
		Listening and Speaking B	2後	2					○							兼1
		English Communication A	2前	2						1						
		English Communication B	2後	2												兼1
		Advanced English (Discussion)	3前・後	2							1					
		Advanced English (Presentation)	3前・後	2							1					
		Advanced English (Debate)	3前・後	2							1					
		Urban Geography	3前	2					○		1					
		Regional Environment and Sustainability	3前	2					○		1					
		Development and Management	3後	2					○		1					
		Peace and Coexistence	3後	2					○			1				
		英語学概論	3前	2					○							兼1
		英語音声学	3後	2					○							兼1
		英文法	3前	2					○							兼1
	英語文学A	3前	2					○							兼1	
	英語文学B	3後	2					○							兼1	
	小計 (25科目)		—	0	50	0			—	8	3	0	0	0	兼4	
	(D) 演習科目	アカデミックスキル I	1前	2					○	4	1	4				
アカデミックスキル II		1後	2					○	7	3	4					
演習 I		2後	2					○	11	3	4					
演習 II		3前	2					○	11	3	4					
演習 III		3後	2					○	11	3	4					
卒業研究 I		4前	2					○	11	3	4					
卒業研究 II		4後	2					○	11	3	4					
小計 (7科目)		—	14	0	0			—	11	3	4	0	0	0		
合計 (246科目)		—	36	394	0			—	11	3	4	0	0	兼170		
学位又は称号		学士 (国際共創)			学位又は学科の分野			経済学関係、社会学・社会福祉学関係								
卒業要件及び履修方法								授業期間等								
<p>卒業要件は、全学共通科目から30単位、学科専攻科目から94単位以上、合計で124単位以上を修得するものとする。</p> <p>【全学共通科目】 (30単位) 外国語科目の必修外国語科目のうち英語を必修として4単位、自分で選択できる第2外国語 (フランス語、ドイツ語、スペイン語、中国語、朝鮮語) から4単位、選択外国語科目から2単位、合計で10単位を卒業要件としている。なお、日本語は留学生のみ履修できる。 広域科目は、①思想と文化、②歴史と社会、③健康とスポーツ、④自然と生活、⑤データサイエンスと数理から、それぞれ2単位ずつ修得することを含み、合計で20単位を卒業要件としている。</p> <p>【学科専攻科目】 (94単位以上) (A) 基礎科目は、(1) 入門科目の必修①と②から14単位、選択必修から4単位、(2) 基礎科目の必修から4単位、選択必修①と②から2単位ずつ、合計で26単位を卒業要件としている。 (B) 専門科目は、(1) 基幹科目の選択必修①から16単位、②から2単位、(2) 領域科目から24単位、合計で42単位を卒業要件としている。 (C) 発展科目は、(1) 共創科目から4単位、(2) 英語アドバンスト科目から4単位、合計で8単位を卒業要件としている。 (D) 演習科目は、14単位を卒業要件としている。 その他、(A) ~ (C) で必要単位数以上修得した単位や、他学部の科目は4単位まで卒業要件に含めることができる。</p> <p>【履修科目の登録上限】 1年次は半期22単位、2年次以降は半期24単位。</p>								1 学年の学期区分			2 学期					
								1 学期の授業期間			15週					
								1 時限の授業時間			90分					

授 業 科 目 の 概 要			
(国際共創学部国際共創学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目 外国語科目 必修外国語科目	英語Ⅰa [R&W]	本授業では、平易なコミュニケーションを行うための基礎英語力を養成することをめざし、以下の目標を設定する。基本語彙、基本文法を修得し、平易な英文を読んで理解し書くことが出来る、平易な英語の文章を正しく理解・把握できるようになる、英和辞典を効果的に活用し、平易な英文を読んで理解し書くことが出来る。また、ペアワーク、グループワーク等の時間を適宜設けて、アクティブ・ラーニングを主体とした授業を進める。	
	英語Ⅰb [L&S]	英語のリスニングそしてスピーキング力の向上には、英語の音の仕組みを理解することが必要である。「英語が聞き取れない」一つの理由は、日本語にはない英語独特の音の仕組みを把握していないことにある。英語を聞き取れるようにするには、それを発話する練習が重要である。本授業は、リスニングそしてスピーキング力の向上に重点を置き、基礎的な英語力を養うことを目的とする。リスニングでは、英語での会話やリスニングの基本的なテクニックや戦略を学び、内容を理解していく。スピーキングでは、自分の英語に自信を持ち、堂々と考えを発表することができるよう訓練を行う。英語発音、語彙、フレーズの練習を通して、話し言葉のメッセージ、アナウンス、身の回りの具体的な事柄について話を理解できるように授業を進めていく。	
	英語Ⅱa [R&W]	本授業では、平易なコミュニケーションができる基礎英語力を養成することを目的とし、英語をコミュニケーションの手段として運用するための語彙と文法の習熟を図るため、以下の目標を設定する。語彙力を伸ばし、文法の使い方を理解した上で、英和辞典を効果的に活用し、平易な英文を読んで理解し書くことが出来る、長めの英語の文章を正しく理解・把握できるようになる、また、いくつかの英文から必要な情報を得たり、内容を把握できるようにする。ペアワーク、グループワーク等の時間を適宜設けて、アクティブ・ラーニングを主体とした授業を進める。	
	英語Ⅱb [L&S]	本授業では、日本語にはない英語独特の音の仕組みを把握し、それを発話することに焦点を当てる。本授業は、リスニングそしてスピーキング力の向上に重点を置き、さらにレベルアップした英語力を養うことを目的とする。リスニングでは、長めの会話やアナウンスを聞き、内容を理解していく。スピーキングでは、会話練習を行い、会話力を高める。学期後半ではグループプレゼンテーションを行い、フォーマル形式のプレゼンテーションについて学修、実践する。	
	英語Ⅲa [R&W]	本授業では、より実践的なコミュニケーションができる英語力を養成することを目的とし、語彙力と表現力の向上を図り、英語の応用力を高める。本授業の目的は、より高度で複雑な英文法を修得し、難易度の高い英文を読み書きするスキルを発展させる。また身近なジャンルに関する内容について、自分の意見を正確な文章で書き、より高度な英語表現能力を身につける。インターネットを駆使し、必要な情報を抽出し、英語文章の正確な理解など、難易度の高い英語読解力の向上も目指す。ペアワーク、グループワーク等の時間を適宜設けて、アクティブ・ラーニングを主体とした授業を進める。	
	英語Ⅲb [L&S]	本授業では、リスニングとスピーキングを更に発展させるために、リスニングとスピーキングの応用力を身につける。本授業の目的は、リスニングでは、英語の多様性を理解し、世界の人々が話す英語を意識し、英会話やスピーチなどを理解することができる。スピーキングでは、テーマに関して論理的かつ説得的に英語で発表できるプレゼンテーション力を高める。これらの活動を通じて、実践的なコミュニケーションスキルを身につけることを目的とする。授業形態としては、学生のレベルや興味関心に合うように、ペアワーク、グループワーク等を利用して、アクティブ・ラーニングを主体とした授業を進める。	
	英語Ⅳa [R&W]	本授業では、英語Ⅲaで身につけた高度な英語表現力をさらに発展させ、より複雑な文章を正確に読解する力を身につける。また、より自然な英語表現力や効果的なコミュニケーション力を磨き、より洗練された英語表現を修得することを目指す。本授業の目的は、より高度な読解力とライティングスキルを身につけるために、社会や文化的な内容やビジネス文書などの幅広いジャンルの文章を読み書きすることに重点を置く。さらにフォーマルな英語表現や形式を身につけ、パラグラフライティングを用いて英語の表現力を向上させる。ペアワーク、グループワーク等の時間を適宜設けて、アクティブ・ラーニングを主体とした授業を進める。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際共創学部国際共創学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目 外国語科目 必修外国語科目	英語Ⅳb [L&S]	本授業では、リスニングとスピーキングを更に発展させ、より高度なリスニングとスピーキングスキルを身につける。本授業の目的は、リスニングでは、様々なジャンルの英文を聞いて理解し、それを英語で簡潔に説明できるようにする。スピーキングでは、テーマについて、ディスカッションやプレゼンテーションを通じ、英語で意見交換することができる。これらの活動を通じて、高度な英語力を身につけ、英語コミュニケーション能力を向上させることを目指す。授業形態としては、学生のレベルや興味関心に合うように、ペアワーク、グループワーク等を利用して、アクティブ・ラーニングを主体とした授業を進める。	
	フランス語Ⅰa [講読]	本授業の目的は、フランス語の初学者を対象に、会話表現を主体とした教材を用いて、さまざまなシチュエーションを想定しつつ、発音、読解、作文といった種々の要素を併せて実践的に学ぶことである。本授業では入門レベルのフランス語の発音と読解に重きを置いて、フランス語話者にも通じるフランス語の発音ができる、初歩レベルの会話ができる、辞書を用いてフランス語を読み解くことができる、簡単な口語表現ができるようになることを目標にしている。	
	フランス語Ⅰb [文法]	本授業の目的は、フランス語の初学者を対象に、文法と作文を主体とした教材を用いて、さまざまなシチュエーションを想定しつつ、発音、読解、作文といった種々の要素を併せて実践的に学ぶことである。本授業では入門レベルのフランス語の文法と作文に重きを置いて、フランス語の綴り字が正しく読める、初歩レベルの作文ができる、辞書を用いてフランス語を読み解くことができる、初歩的な文章表現ができるようになることを目標にしている。	
	フランス語Ⅱa [講読]	本授業の目的は、フランス語Ⅰaに続き、会話表現を主体とした教材を用いて、さまざまなシチュエーションを想定しつつ、発音、読解、作文といった種々の要素を併せて実践的に学ぶことである。本授業では、次の目標を達成できるよう、初歩レベルのフランス語の発音と読解に重きを置いて授業を行う。①フランス語話者にも通じるフランス語の発音ができる。②内容を伴った会話ができる。③辞書を用いてフランス語を読み解くことができる。④簡単な口語表現ができる。	
	フランス語Ⅱb [文法]	本授業の目的は、フランス語Ⅰbに続き、文法と作文を主体とした教材を用いて、さまざまなシチュエーションを想定しつつ、発音、読解、作文といった種々の要素を併せて実践的に学ぶことである。本授業では、次の目標を達成できるよう、初歩レベルのフランス語の文法と作文に重きを置いて授業を行う。①フランス語の綴り字が正しく読める。②内容を伴った作文ができる。③辞書を用いてフランス語を読み解くことができる。④簡単な内容の文章表現ができる。	
	フランス語Ⅲa [講読]	本授業の目的は、フランス語Ⅱaに続き、中級レベルのフランス語を学ぶことである。本授業では、会話表現を主体とした教材を用いて、さまざまなシチュエーションを想定しつつ、発音、読解、作文といった種々の要素を併せて実践的に学ぶ。本授業を通して、次の到達目標を達成できるようにする。①フランス語話者にも通じるフランス語の発音ができる。②やや高度な内容の会話ができる。③辞書を用いてフランス語を読み解くことができる。④ポライトネス等を考慮に入れた日常レベルの口語表現ができる。	
	フランス語Ⅲb [文法]	本授業の目的は、フランス語Ⅱbに続き、中級レベルのフランス語を学ぶことである。本授業では、文法と作文を主体とした教材を用いて、さまざまなシチュエーションを想定しつつ、発音、読解、作文といった種々の要素を併せて実践的に学ぶ。本授業を通して、次の到達目標を達成できるようにする。①フランス語の綴り字が正しく読める。②やや高度な内容の作文ができる。③辞書を用いてフランス語を読み解くことができる。④時制や法や態に配慮したやや高度な内容の文章表現ができる。	
	フランス語Ⅳa [講読]	本授業の目的は、フランス語Ⅲaに続き、中・上級レベルのフランス語を学ぶことである。本授業では、会話表現を主体とした教材を用いて、さまざまなシチュエーションを想定しつつ、発音、読解、作文といった種々の要素を併せて実践的に学ぶ。本授業を通して、次の目標を達成できるようにする。①フランス語話者にも通じるフランス語の発音ができる。②高度な内容の会話ができる。③辞書を用いてフランス語を読み解くことができる。④ポライトネスやディスカッションを考慮に入れた日常レベルの口語表現ができる。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際共創学部国際共創学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目 外国語科目 必修外国語科目	フランス語Ⅳb [文法]	本授業の目的は、フランス語Ⅲbに続き、中・上級レベルのフランス語を学ぶことである。本授業では、文法と作文を主体とした教材を用いて、さまざまなシチュエーションを想定しつつ、発音、読解、作文といった種々の要素を併せて実践的に学ぶ。本授業を通して、次の目標を達成できるようにする。①フランス語の綴り字が正しく読める。②やや高度な内容の作文ができる。③辞書を用いてフランス語を読み解くことができる。④時制や法や態に配慮したやや高度な内容の文章表現ができる。⑤書き言葉で自らの思惟を表現できる。	
	ドイツ語Ⅰa [講読]	本授業では、ドイツ語を使って自分のことを表現したり、他人に質問したりする基礎的能力を身につけるため、ドイツ語での「聞く」「話す」「読む」「書く」を学ぶ。特に、ドイツ語を使って行動し、人と意思疎通することができるようになるため、コミュニケーション能力の養成に重点を置く。そのため受講者同士が助け合い・学び合うペアワークやグループワーク中心の授業を進める。文法の説明を受けて、それを訓練する方法ではなく、まず言語使用を体験して、そこから言語の仕組みを予測・発見するアクティブラーニングの授業を行う。また、振舞や所作など身体言語についても学ぶ。	
	ドイツ語Ⅰb [文法]	本授業は、ドイツ語をはじめて学ぶ人のための初級文法を解説する講義である。ドイツ語の構造を理解し、基本的な文章を読解・作文できるようになるために、初歩的な語彙や表現を覚えながら文法を学ぶ。学修した文法がしっかり身につくように、実際にドイツで使用されている新聞記事やビデオを例示するなどしながら多彩な練習をこなす。ドイツ語初級文法を説明でき、簡単なドイツ語の文章を読解でき、短いドイツ語の文章を文法的に正しく作文できることを目指す。	
	ドイツ語Ⅱa [講読]	本授業では、ドイツ語圏の日常生活において簡単な要件であればこなせる運用能力を身につけるため、ドイツ語で「話す」「聞く」「読む」「書く」トレーニングを行う。特に、ドイツ語を使って行動し、人と意思疎通することができるようになるため、アクティブラーニングの授業を行う。ヨーロッパ言語共通参照枠のA1に相当するドイツ語の基礎的コミュニケーション能力を獲得する第一段階として、自己紹介や友人の紹介、好きなもの・所有している物に関する質疑を行うことを目指す。	
	ドイツ語Ⅱb [文法]	本授業は、ドイツ語の初級文法を解説する講義である。より高度な文章を読み解くことができるようになるため、語彙を増やし、ドイツ語の基本表現を覚えながら文法を学ぶ。学修した文法がしっかり身につくように、実際にドイツで使用されている新聞記事やビデオを例示し、簡単な読み物を読解するなどしながら多彩な練習をこなす。目標として、より広範なドイツ語文法を説明でき、より複雑なドイツ語の文章を読解でき、ドイツ語の文章を文法的に正しく作文できることを目指す。	
	ドイツ語Ⅲa [講読]	本授業の目的は、ドイツ語圏の日常生活においてより広範な要件をこなせる運用能力を身につけるため、「話す」「聞く」「読む」「書く」ことをドイツ語で学ぶことである。特に、ドイツ語を使って主体的に行動し、他者と意思疎通し、社会で活躍することができるようになるために、自分や友人、社会とのかかわりを表現する多様なアクティブラーニングの授業を行う。ヨーロッパ言語共通参照枠のA1に相当するドイツ語の基礎的コミュニケーション能力の獲得を目指す。	
	ドイツ語Ⅲb [文法]	本授業は、ドイツ語の基本文法全般を学ぶ講義である。初級ドイツ語では学びきれなかったドイツ語の基本的文法を学ぶ。そのあと、学び取った基本文法を駆使しながら、平易なドイツ語の読み物などを読解する練習を行う。ドイツ語の作文に関しても、自分の考えを簡易なドイツ語の文章で表現できるように、基本文法を基にしてより広範なドイツ語作文を練習する。基本的な表現であれば、多様なドイツ語の読み物を読解し、自分の考えを作文できることを目指す。	
	ドイツ語Ⅳa [講読]	本授業では、ドイツ語圏の日常生活や大学においてより広範で、専門的な要件をこなせる運用能力を身につけるため、ドイツ語でより高度な「話す」「聞く」「読む」「書く」ことを行う。特に、ドイツ語を使って主体的に行動し、他者と意思疎通し、大学や社会で活躍することができるようになるために、自分の考えや自分の学業、その他さまざまな社会問題を理解し、表現するアクティブラーニングの授業を行う。ヨーロッパ言語共通参照枠のA2に相当するドイツ語の基礎的コミュニケーション能力の獲得を目指す。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際共創学部国際共創学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目 外国語科目 必修外国語科目	ドイツ語Ⅳb [文法]	本授業は、ドイツ語の中級文法を学ぶ講義である。基本的な用法を含めて一通り基本的な文法を学び終えた次の段階として、より高度なドイツ語文法を学ぶ。多彩で生きたドイツ語を学ぶため、ドイツの新聞や書籍などの実践的な文章の読解も行う。また、自分の考えをドイツ語の文章で表現できるようにドイツ語の作文も練習する。目標として、いくつかの限られた分野の文章であれば、読解・作文ができるようになることを目指す。	
	スペイン語Ⅰa [講読]	本授業ではスペイン語初級レベルの読解力を身につける。教科書に沿って文法事項を振り返りつつ、平易な文章の講読に取り組む。また、音声教材を活用した発音練習や聴解練習を取り入れ、自然な会話表現を学ぶ。本授業を通して、読み、書き、話すという総合的なスペイン語学修を通じて「生きたスペイン語」を身につける。また、スペイン語Ⅰbと併せて、授業内容を確実に理解することで、スペイン語技能検定6級レベルまで到達できる。授業は、アルファベット・発音・アクセントから始まり、名詞・冠詞・形容詞・動詞(直説法現在の規則活用・不規則活用)などを使ったスペイン語の基本的な表現を学修する。また、学修意欲を高めるために、語学学修に加えてスペイン語圏の文化や習慣を紹介する。	
	スペイン語Ⅰb [文法]	本授業ではスペイン語初級文法を修得する。教科書に沿って文法事項を解説し、練習問題を通じて文法の理解を深める。また、学修した文法事項を使った平易な作文や会話などの実践的な練習を行う。本授業を通して、基礎的な文法を学び、自己紹介やあいさつなど平易な会話や作文ができるようになる。また、スペイン語Ⅰaと併せて、授業内容を確実に理解することで、スペイン語技能検定6級レベルまで到達できる。授業は、アルファベット・発音・アクセントから始まり、名詞・冠詞・形容詞・動詞(直説法現在の規則活用・不規則活用)などスペイン語の基本的な文法事項と文構造を学修する。また、学修意欲を高めるために、語学学修に加えてスペイン語圏の文化や習慣を紹介する。	
	スペイン語Ⅱa [講読]	本授業の目的は、スペイン語初級レベルの読解力を身につけることである。教科書に沿って文法事項を振り返りつつ、平易な文章の講読に取り組む。また、音声教材を活用した発音練習や聴解練習を取り入れ、自然な会話表現を学ぶ。本授業では、スペイン語特有の動詞の使い方(gustarや再帰動詞)や、現在以外の時制(点過去・線過去・現在完了など)を使ったスペイン語の基本的な表現を学修する。また、学修意欲を高めるために語学学修に加えてスペイン語圏の文化や習慣を紹介する。本授業を通して、読み、書き、話すという総合的なスペイン語学修を通じて「生きたスペイン語」を身につけることができる。また、スペイン語Ⅱbと併せて、授業内容を確実に理解することで、スペイン語技能検定6級レベルまで到達できる。	
	スペイン語Ⅱb [文法]	本授業の目的は、スペイン語初級文法を修得することである。教科書に沿って文法事項を解説し、練習問題を通じて文法の理解を深める。また、学修した文法事項を使った平易な作文や会話などの実践的な練習を行う。本授業では、スペイン語Ⅰで学んだ文法事項の習熟とともに、目的格人称代名詞・gustar・再帰動詞などスペイン語特有の表現や、点過去・線過去といった過去時制など、スペイン語Ⅰに比べてより高度な文法事項と文構造を学修する。また、学修意欲を高めるために、語学学修に加えてスペイン語圏の文化や習慣を紹介する。本授業を通して、学修した文法事項を使って、日常生活に関する平易な会話や作文ができるようになる。また、スペイン語Ⅱaと併せて、授業内容を確実に理解することで、スペイン語技能検定6級レベルまで到達できる。	
	スペイン語Ⅲa [講読]	本授業の目的は、スペイン語中級レベルの読解力を身につけることである。教科書に沿って文法事項を振り返りつつ、より複雑な文章の講読に取り組む。また、音声教材を活用した発音練習や聴解練習を取り入れ、自然な会話表現を学ぶ。本授業では、スペイン語Ⅰ、Ⅱの学修内容に加え、未来時制(直説法未来・過去未来)や接続法を使ったより高度なスペイン語表現を学修する。また、学修意欲を高めるために、語学学修に加えてスペイン語圏の文化や習慣を紹介する。本授業を通して、読み、書き、話すという総合的なスペイン語学修を通じて「生きたスペイン語」を身につけることができる。また、スペイン語Ⅲbを並行して受講し、授業内容を確実に理解することで、スペイン語技能検定4級レベルまで到達できる。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際共創学部国際共創学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目 外国語科目 必修外国語科目	スペイン語Ⅲ b [文法]	本授業の目的は、スペイン語中級文法を修得する。指定の教科書に沿って文法事項を解説し、練習問題を通じて理解を深めることである。また、学修した文法事項に基づいて正確なスペイン語表現を身につけるための実践的な練習を行う。本授業では、スペイン語Ⅰ、Ⅱで学んだ文法事項の習熟とともに、未来時制(直説法未来・過去未来)や接続法といったより高度な動詞の用法と文構造を学修する。また、学修意欲を高めるために、語学学修に加えてスペイン語圏の文化や習慣を紹介する。本授業を通して、日常会話において状況に即したやりとりができるようになるとともに、自身の文化や社会についてスペイン語で説明する力を身につけることができる。また、スペイン語Ⅲ aを併せて受講し、授業内容を確実に理解することで、スペイン語技能検定4級レベルまで到達できる。	
	スペイン語Ⅳ a [講読]	本授業の目的は、スペイン語中級レベルの読解力を身につけることである。指定の教科書に沿って文法事項を振り返りつつ、より複雑な文章の講読に取り組む。また、音声教材を活用した発音練習や聴解練習を取り入れ、自然な会話表現を学ぶ。本授業は、様々な種類のテキストを講読するとともに、文化的文脈によるスペイン語表現の違いなどを学修する。また、学修意欲を高めるために、語学学修に加えてスペイン語圏の文化や習慣を紹介する。本授業を通して、読み、書き、話すという総合的なスペイン語学修を通じて「生きたスペイン語」を身につけることができる。また、スペイン語Ⅳ bを併せて受講し、授業内容を確実に理解することで、スペイン語技能検定4級レベルまで到達できる。	
	スペイン語Ⅳ b [文法]	本授業の目的は、スペイン語中級文法を修得することである。指定の教科書に沿って文法事項を解説し、練習問題を通じて理解を深める。また、学修した文法事項に基づいて正確なスペイン語表現を身につけるための実践的な練習を行う。本授業は、スペイン語Ⅰ～Ⅲで学んだ文法事項の習熟とともに、スペイン語文法の総括を行う。あらゆる動詞の時制を用いてより高度な会話や作文を実践する。また、学修意欲を高めるために、語学学修に加えてスペイン語圏の文化や習慣を紹介する。本授業を通して、日常会話において状況に即したやりとりができるようになるとともに、自身の文化や社会についてスペイン語で説明する力を身につけることができる。また、スペイン語Ⅳ aを併せて受講し、授業内容を確実に理解することで、スペイン語技能検定4級レベルまで到達できる。	
	中国語Ⅰ a	本授業は中国語の入門授業のため、初めて中国語を学ぶ学生を対象にしている。まず声調とピンインの読み方を勉強し、発音の修得につとめる。声調とピンインの読み方を一通り学修したうえで、次に中国語の基本文法を学修する。中国語の発音に重点を置きながら簡単な日常会話に役立つ「話す」能力を確実にマスターしていく。「リスニング」と「短文」の両方をバランスよく学修することで、総合的な力を身につけることができる。	
	中国語Ⅰ b	本授業では、中国語の発音と基礎文法を復習しながら、補語などのやや難しい中国語文法を学修する。また、聞くと言語練習を繰り返して行う。この授業は、①中国語のピンインを正しく読めること、②漢字の正しい発音を覚えること、③基本的な文法事項が正しく理解でき、簡単な日常会話ができることを目標とする。本授業を通して、中国語検定試験4級レベルに相当する中国語能力を身につけることができる。	
	中国語Ⅱ a	本授業では、1年次で学修した発音と基礎文法を復習して、正確に発音し、聞き取ることができるよう練習を重ねていく。そして、さらなる中国語の日常会話に役立つ「聞く」と「話す」能力を確実にマスターしていく。各文法項目を頭で理解するだけでなく、聞き取れること、話すことをできるように、学生同士での会話や発表の機会を与えて練習させ、中国語の語感を身につけることを目指す。	
	中国語Ⅱ b	本授業では、中国語の発音と基本文法を復習し、活用度の高い内容を学修し、中国語の聞く、話す、書く練習を繰り返して行う。発音の正しさ、一定の単語量の獲得、基礎から中級の文法の活用ができるようになることを授業の目標とする。授業では口頭対話を中心にとして簡単な日常会話を場面設定にしたがって練習する。特に買い物、レストラン、病院などの各場面での表現を確実にマスターできることを目指す。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際共創学部国際共創学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目 外国語科目 必修外国語科目	中国語Ⅲ a	本授業の目的は、実際に中国語を運用する能力を高めるために、より実践的なトレーニングを行うことである。中国語Ⅰ及びⅡで基礎を学んだとはいえ、発音も文法も表現の使い方も不安なところが少なくない。そうした不安も解消する。テキストは練習を多くすることによって文法の確認、運用能力の強化が可能となり、繰り返してトレーニングすることによって重要事項が記憶に残るようにする。授業を通して、中国に対する理解を深め、中国語を使って自己表現ができるようにする。	
	中国語Ⅲ b	本授業の目的は、修得してきた中国語の基礎をもとに、さらに文法や語彙に関する知識をより広く、深く習い、話す、聴く、読む力を養うことである。また、中国の学校・生活習慣・暮らし、考え方、観光名所などについての社会知識を身につけていくと同時に、聞く・書く・話す・翻訳などの総合能力を育成する。授業を通して、中国語検定試験3級レベルに相当する能力を身につけることを目標とする。	
	中国語Ⅳ a	本授業の目的は、中国語Ⅲまでに学んだ基礎力を活かして、より実践的なトレーニングをしていくことである。テキストは、練習を時間をかけてできるように構成されている。日本語で言いたいことが中国語で瞬時に頭に浮かぶようになれば、書くことにも話すことにも、さらには読んだり聞いたりすることにも不自由がなくなる。それらの力を修得するためには時間がかかるが、履修期間が終わったあとも自分でトレーニングを積んでいけるように、確実にレベルアップする方法で練習していく。	
	中国語Ⅳ b	本授業の目的は、1年次からこれまでに学んだ中国語を活かして、より難易度が高い中国語を学修することである。日本語で言いたいことが中国語で瞬時に頭に浮かぶようになれば、書くことにも話すことにも、さらには読んだり聞いたりすることにも不自由がなくなる。それらの力を修得するためには、かなり難しい内容となるが、履修期間が終わったあと、中国語検定試験2級に相当するレベルを目指し、トレーニングを積んでいく。	
	朝鮮語Ⅰ a	本授業の目的は、ハングル文字の読み・書きを身につけることである。本授業では、ハムニダ体の名詞文とその否定、ハムニダ体用言文、疑問詞の使い方、数詞、基本的な助詞などを学ぶ。また、あいさつ表現、自己紹介など簡単な表現を修得し、発音の反復練習、文法事項の説明、練習問題、小テストを通して各課の目標が達成できるようにする。初めて学ぶ朝鮮語のため、発音やリズムを身につけるように常に発音を重視する。	
	朝鮮語Ⅰ b	本授業の目的は、朝鮮語の文字と発音の基礎を学び、身近な会話表現や基本的な文型を身につけることである。そのため、基本的な語彙・表現や語形変化の修得、自己紹介と基礎会話を中心とする。また、ほぼ毎回クイズを行い、出題範囲を確認し、何度も読み書きしながら、文字や単語を覚えるように講義する。本授業を通して、ハングルが正確に読み・書きできるようになること、基本的な語彙・表現や語形変化を修得することを主な目標とする。	
	朝鮮語Ⅱ a	本授業の目的は、朝鮮語Ⅰに引き続き、朝鮮語の初歩をマスターすることである。韓国人と最低限度のコミュニケーションがはかれるよう、簡単な会話文を学修する。テキストに沿って、否定形、ヘヨ体、過去形、尊敬形、命令形などを学ぶ。文末の文体や時制の変換、補助語幹の着脱がすばやくできるように練習する。発音を重視しながら、身近な会話表現を修得していく。本授業を通して、発音、基礎語彙、基本文法をバランスよく学修し、折に触れて復習を行い、体系的に把握できるようにする。	
	朝鮮語Ⅱ b	本授業の目的は、朝鮮語の基礎を学ぶことである。初級文法を固め、語彙を増やすとともに、更にいろいろな表現を学ぶ。実践会話や演習を通して学んだ文型を実際に使える能力を獲得する。本授業を通して、教詞と時刻の言い方、過去時制や尊敬表現などを学び、ハングル能力検定5級に合格できる程度の語彙力と表現力を身につけることを目標とする。また、基本単語や文型を修得し、簡単な日常会話ができるようになることを目指す。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際共創学部国際共創学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目 外国語科目 必修外国語科目	朝鮮語Ⅲ a	本授業の目的は、1年次に学修した内容を定着させながら、さらに上の文法事項を系統的に学修し、語彙力・慣用表現を身につけていくことである。まず1年次の内容を復習して、過去形、連体形、進行形、未来・意志形、リウル語幹・変則用言などを学ぶ。朝鮮語の読解力を向上させることを主とするが、すらすら読めるよう発音も重視し、作文や会話も取り入れ総合的に韓国語能力を向上させていく。本授業を通して、韓国留学生と簡単な交流をできるレベルを目指す。	
	朝鮮語Ⅲ b	本授業の目的は、場面別会話教材を使って、社会生活に必要な語彙と表現を修得することである。そのため、朝鮮語ⅠとⅡの履修、あるいはそれと同等の能力があることが前提となる。初級であるⅠ・Ⅱで学んだ文法と語彙をもとに、様々な語尾を段階的に学修する。比較的平易な会話文を題材としながら、身近な話題の生活会話を学ぶ。本授業を通して、朝鮮語の発音の反復練習、文法事項の説明、練習を通して、場面別会話能力を身につけることを目標とする。	
	朝鮮語Ⅳ a	本事業の目的は、既習の内容を定着させながら、さらに上の文法事項を系統的に学修し、語彙力・慣用表現を豊富にしていくことである。具体的には、変則用言、推量・謙譲・勧誘・禁止・仮定・譲歩などの表現などを学ぶ。朝鮮語の読解力を向上させることを主とするが、すらすら読めるよう発音も重視し、作文や会話も取り入れ総合的に韓国語能力を向上させていく。折に触れて、現在の朝鮮半島の社会や文化等に対しても理解を深めるようにする。そして、北朝鮮と韓国と異なった語彙や表現などについて、適宜補注して説明する。	
	朝鮮語Ⅳ b	本授業の目的は、朝鮮語Ⅰ・Ⅱで学んだ文法と語彙をもとに、様々な語尾の活用を学修することである。具体的には連用形、連体形、意思未来、予定・計画、経験の有無、義務の表現、引用形、依頼や誘いの受託や拒否、許可の授受などを修得する。また、練習問題を解き、短文作文、実践会話練習を行う。常に発音重視で、身近な表現を身につけ、朝鮮語コミュニケーション能力を高めていく。本授業を通して、比較的平易な会話文を題材とし、身近な日常表現を身につけ、韓国人とやや複雑な会話ができるように目指す。	
	日本語Ⅰ a	本授業は、1年次の留学生を対象にした、初級の日本語科目である。主に「読む」「書く」力の基礎を伸ばすことを目指す。全15回の講義では、新聞読解を繰り返し、語彙や表現を獲得するとともに、文章をより速く、適確に読み、書けるようになるための実践的なトレーニングを集中的に行う。	
	日本語Ⅰ b	本授業は、1年次の留学生を対象にした、初級の日本語科目である。主に「聞く」「話す」力の基礎を伸ばすことを目指す。全15回の講義では、様々なジャンルの評論、小説、エッセイなどの文章を題材に、自然な速度でのリスニングやスピーキングのほか、ビジネス会話の練習を行う。	
	日本語Ⅱ a	本授業は、1年次の留学生を対象にした、初級から中級の日本語科目である。主に「読む」「書く」力を伸ばし、日本語の表現がスムーズに使えるようになることを目指す。全15回の講義では、新聞やニュースの読解を繰り返し、より高度な語彙や表現を獲得するとともに、文章をより速く、適確に読み、書けるようになるための実践的なトレーニングを集中的に行う。	
	日本語Ⅱ b	本授業は、1年次の留学生を対象にした、初級から中級の日本語科目である。主に「聞く」「話す」力を伸ばし、日本語の表現がスムーズに使えるようになることを目指す。全15回の講義では、様々なジャンルの評論、小説、エッセイなどの文章を題材に、日本語の基本的な文型や表現を学修するほか、それらが正確な発音で滑らかに口から出るよう聴解・会話練習を行う。	
	日本語Ⅲ a	本授業は、2年次の留学生を対象にした、中級の日本語科目である。主に「読む」「書く」力を伸ばし、読解力や語彙力を向上させることを目指す。全15回の講義では、さまざまな日本語の文章を題材に、高度な語彙と表現を獲得するとともに、日本文化の背景となる知識を修得していく。	
	日本語Ⅲ b	本授業は、2年次の留学生を対象にした、中級の日本語科目である。主に「聞く」「話す」力を伸ばし、社会生活に必要な読解力・言語運用能力を修得することを目指す。全15回の講義では、さまざまな文章を幅広く読み、語句・文型の確認を行うとともに、テーマについて意見や感想を述べ、より実践的なリスニングを行う。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際共創学部国際共創学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目 外国語科目	必修外国語科目	日本語Ⅳ a	本授業は、2年次の留学生を対象にした、中級から上級の日本語科目である。主に「読む」「書く」力をさらに伸ばし、さまざまな日本語に触れながら、語彙、文型、待遇表現等を学ぶ。授業では、「濁音」や「長音」などに特に注意しながら漢字の読みを正確に覚え、日頃からあらたまった表現とうちとけた表現の区別を意識し、整理できるようになることを目指す。
		日本語Ⅳ b	本授業は、2年次の留学生を対象にした、中級から上級の日本語科目である。主に「聞く」「話す」力を伸ばし、社会生活に必要な読解力・言語運用能力をより修得することを目指す。全15回の講義では、さまざまな文章を幅広く読み、語句・文型の確認を行うとともに、テーマについて意見や感想を述べる練習や、リスニングのほか、ビジネス会話の練習を行う。
		日本語Ⅴ a	本授業は、3年次の留学生を対象にした、上級の日本語科目である。主に「読む」「書く」力を伸ばし、アカデミックな日本語表現力を修得することを目指す。全15回の講義では、アカデミックな日本語の文章を題材に、レポートで必要となる日本語表現を身につけていく。
		日本語Ⅴ b	本授業は、3年次の留学生を対象にした、上級の日本語科目である。主に「聞く」「話す」力を伸ばし、高度な日本語表現力を修得することを目指す。全15回の講義では、文章読解とビジネス会話の練習に加え、日本語能力試験1級レベルの漢字の読み書きや、ビジネス日本語能力テスト(BJT)の練習を行う。
		日本語Ⅵ a	本授業は、3年次の留学生を対象にした、上級の日本語科目である。主に「読む」「書く」力を伸ばし、高度にアカデミックな日本語表現力を修得することを目指す。全15回の講義では、アカデミックな日本語の文章を題材に、レポートや卒業論文で必要となる日本語表現を身につけていく。
		日本語Ⅵ b	本授業は、3年次の留学生を対象にした、上級の日本語科目である。主に「聞く」「話す」力を伸ばし、高度な日本語表現力をより修得することを目指す。全15回の講義では、文章読解とビジネス会話の練習に加え、日本語能力試験1級レベルの漢字の読み書きや、ビジネス日本語能力テスト(BJT)の練習、及びニュースの聴解を行う。
	選択外国語科目	TOEIC I	本授業では、解説を聴きながら弱点を分析し繰り返し演習を解くことにより、現在のTOEIC Testのスコアアップを目指す。語彙力を強化し、リスニング・リーディングのコツを掴み、基礎的な文法事項の復習・定着を図る。また、各パートの演習を通してTOEICの形式に慣れ、その特色を掴む。入門・初級レベルの学生及び基礎知識の再確認・定着・強化を図りたい学生対象で、到達目標としては、Before Testの得点よりAfter Testの得点が同じか上回り、語彙やイディオムの強化と基本文法の定着、TOEIC Test の構成を理解し各パートの解き方を身につける。
		TOEIC II	本授業では、目標とするスコアを取得するための実践的な攻略法を学びトレーニングを積んでいく。各パートでより高い点数を取るためのコツやフォーカスすべき点を学ぶ。毎回、MINI TOEIC L&R TESTを行い、理解の度合いをチェックし学んだことの定着をはかる。同時に、TOEIC L&R Testの形式に十分慣れる。TOEIC450点から700点位までのレベルの学生を対象で、到達目標としては、語彙やイディオムの強化と文法項目の定着、TOEIC L&R Testの構成を十分理解し、各パートの解き方を身につけ、時間配分を意識して取り組めるようにする。
		TOEIC III	本授業では、スクリプトを配って語彙、文法を解説する。スコアアップのためには多くの問題を解くことが重要であるため、毎回クラスで演習する。TOEICはビジネス要素を多く含んでおり、普段耳にしない語彙、表現が多くでてくるため、ビジネス用語や表現も身につけていく。到達目標としては、英文の内容を正しく理解、把握できるようにする、経済、ビジネス用語を修得する、仕事に関する英文を理解、把握できるようにする、とし、TOEICスコア700点以上を目指す。

授 業 科 目 の 概 要			
(国際共創学部国際共創学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目 外国語科目 選択外国語科目	英語コミュニケーションⅠ	本授業では、日常的に使える英語の修得をめざし、実践的な英語コミュニケーションの練習を頻繁に行うことによりリスニングとスピーキングの技能を身につける。また、多様な教材を用いて英語と社会・文化の関係についても理解を深める。ペアワーク、グループワークを取り入れ、学修者を主体とした授業を進める。また、自分で設定したプレゼンテーション課題に取り組むなど、アクティブラーニングを軸とした授業を進める。	
	英語コミュニケーションⅡ	本授業では、日常的に使える英語の修得をめざし、実践的な英語コミュニケーションの練習を頻繁に行うことによりリスニングとスピーキングの技能を身につける。また、多様な教材を用いて英語と社会・文化の関係についても理解を深め、非言語的コミュニケーション技能の修得もめざす。ペアワーク、グループワークを取り入れ、学修者を主体とした授業を進める。また、自分で設定したプレゼンテーション課題に取り組むなど、アクティブラーニングを軸とした授業を進める。	
	ビジネス英語Ⅰ	本授業では、グローバルビジネスで活用できる語彙力や表現力の修得を目指す。あわせて、グローバルビジネスでよく取り上げられる課題についても理解を深め、日本語と英語の両方で議論できるようにする。グローバルビジネスでの課題と挑戦についてテキストを使って学び、クイズを通じて語彙や表現を身につけ、ペア・グループワークにて考えを議論し、まとめ、発表するアクティブラーニング形式で行う。また、課題について日本語・英語の両方で議論できるようになること、論理的に説明できるようになることを目指す。	
	ビジネス英語Ⅱ	本授業では、世界15か国の大学生の多様な就職状況をメイントピックとした文章を読解する。TOEIC対策用の読解を中心に基礎的なビジネス英語を身につける。英語の基本の語彙や文型を復習し、ビジネス関連の文章読解を必要に応じて補う。到達目標としては、基本文法を理解し、経済、ビジネス用語を修得することを目指す。また、グローバルビジネスシーンで使う語彙や表現を修得するし、グローバルビジネスでの課題や挑戦について理解を深める。	
	フランス語演習	本授業では、フランス語の初歩から始め、履修者のレベルに応じて適宜内容を考慮しつつ授業を進め、フランス語を総合的に学ぶ。会話表現と文章表現を主体とした教材を用いて、発音、読解、作文といった種々の要素を併せて実践的に学ぶ。本授業では、①フランス語話者にも通じるフランス語の発音ができる、②フランス語話者にも通じるフランス語の発音ができる、③辞書を用いてフランス語を読み解くことができる、ことを目標にしている。	
	ドイツ語演習	本授業は、ドイツ語を使ってドイツ語圏の動向をリサーチし、実際の資料を読み解く上級者を対象とし、一通りの文法を学び終え、ドイツ語の運用能力を身につけた次の段階として、実践的なドイツ語学修に入って行く。ドイツ語圏の政治経済情報をリサーチするために必要な技能を修得し、ドイツ語圏の動向を読み解くトレーニングを行う。本授業を通して、ドイツ語圏をリサーチするための情報源にあたるべきかを知り、具体的にドイツの政府の官報、研究機関、経済紙の読み解き方を学ぶことを目標とする。	
	中国語演習	本授業では、初年次で学修した内容を復習しながら、中国語の文法、発音・会話、作文について、総合的に学び、中国語のスキルを向上させる。例えば、日常的に使用する会話や、自己紹介など、自身の生活に直接活用できるような状況を見据えて、学生同士の対話だけでなく、中国人留学生とのコミュニケーションの場を設けた授業を展開する。また作文においては、短文や長文だけでなく、ビジネスメールの書き方や、留学生への行事案内など、具体的な場面を想定して学ぶ。	
スペイン語演習	本授業では、前半は既習文法項目を復習しつつ新しい文法項目を学びながら、文法項目を体系的に学修するのではなく、機能的な表現を学修する。例えば、日課、趣向、能力、経験、希望など自分自身のことについて発信できるような表現だけでなく、大学や出身地、日本のことなどが紹介できるような表現についても学ぶ。文法の導入、確認が終わった後には、必ず自分のことに置き換えて発信する材料を作成する。後半は、前半で学んだことを踏まえ、スペイン語を使ってスペイン語圏の人々に興味を持ってもらえそうなこと、自分自身もしくは日本のことを紹介するプレゼンテーションをする。		

授 業 科 目 の 概 要				
(国際共創学部国際共創学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
外国語科目	選択外国語科目	朝鮮語演習	グローバル時代において、異なる民族・文化間の相互理解を深めコミュニケーションを円滑にする努力が一層必要となっている。本授業では、韓国文化などを理解する文章の翻訳などを行い、韓国文化の理解を深める。韓国について学ぶためレポートの発表も行う。映像などの視聴覚資料を通して韓国文化に触れ、韓国について自ら調べ、レポート・発表することで韓国に対する理解を深めてコミュニケーション力を身につける。	
	語学研修	本授業は、カナダ、ニュージーランド、フィリピン、スペイン、台湾のいずれかを行き先として選択し、本学と提携を結んでいる大学等での2~3週間のプログラムを実施する。現地ではホームステイや寮生活をする事で多様な文化や生活様式を学ぶ。本授業を通して、スピーキングを中心としたコミュニケーション能力の強化だけでなく、現地の歴史や社会、文化に関する知識を身につけていく。渡航に関する事前オリエンテーションなども実施することで、海外に不慣れた学生でも安全に履修できるよう配慮している。		
全学共通科目	広域科目	①思想と文化	哲学入門	本授業では、受講生が哲学の問いについて考え、自分の考えを更新していくことを目指す。具体的には、哲学者の書いた文章を教材として使い、「死んだらどうなるの?」「勉強しなくちゃいけないの?」「友だちって、いなくちゃいけないものなの?」「神様っているのかなあ?」「愛とはなにか」「政府がなかったらどうなってしまうのか」といった、誰もが子どもの頃に一度は考えたことがあるだろう問題について、考えてもらう。授業の到達目標は、哲学の問題にはどのような問題があるのかを説明できるようになること、自分なりの哲学的思考をおこない、それを表現して他人に伝えることができるようになること、他人の哲学的思考を理解し、自分なりに疑問を立てることができるようになることである。
		現代と哲学	本授業では、「お悩み解決としての哲学」をテーマとして、過去の哲学者の考えたことはどのような悩みの解決に使えるのか、そして、この悩みにはこの哲学者の考えが使えるのではないかと、といったことを授業を通して考える。具体的には、人生相談系の書籍などを読み、人の悩みや解決方法にはどんなパターンがあるかを学び、さらに、関連する哲学についても学ぶ。授業の到達目標は、現代社会で哲学に何が期待されているのかを説明できるようになること、さまざまな人生相談系の文献を読み、それらの内容の傾向を分類できるようになること、「悩みを解決する」とはどういうことなのか、自分なりの考えを持ち、文章で書くことができるようになることである。	
		心理学入門	本授業では、心とは何か心理学の考え方やアプローチを取り上げ、人間の行動を制御する一般的な法則や心理のメカニズムを解明する「基礎心理学」の領域の多様なテーマを紹介する。具体的には、感覚・知覚の心理学、認知・思考の心理学、学修・記憶の心理学、発達心理学、パーソナリティの心理学、臨床心理学、社会心理学が対象となる。講義の方法は、教科書を中心に説明し、補助資料として動画映像を視聴させ、テーマに関係する心理学実験や心理テストや質問紙調査を体験させる。さらに内容の理解度を確認するため、毎回、Webによる簡単な確認テストを行い、次の講義でテスト結果に対するフィードバックを実施する。	
		現代の心理学	本授業では、「基礎心理学」の理論や法則、成果を実際の生活や問題解決、仕事に役立てようとする「応用心理学」の多様なテーマを取り上げる。具体的には、動機づけ、感情、カウンセリングの心理学に加え、最新の進化の心理学や法律の心理学、また脳科学などの周辺領域との関連が大きい神経心理学や生理心理学などを積極的に取り入れた研究領域のテーマを紹介する。講義の方法は、教科書を中心に説明し、補助資料として動画映像を視聴させ、テーマに関係する心理学実験や心理テストや質問紙調査を体験させる。さらに内容の理解度を確認するため、毎回、Webによる簡単な確認テストを行い、次の講義で結果に対するフィードバックを実施する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際共創学部国際共創学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目 広域科目 ①思想と文化	倫理学入門	本授業では、倫理学の基礎理論を入門レベルから学ぶ。授業は講義形式で行う。本授業の目標は、倫理学の問題の難しさを知り、倫理的問題に関する人間の「無知」を自覚すること、倫理学の問題に対してどのようなアプローチがあるのかを把握すること、そして倫理的問題について深く掘り下げて考察し、自分の考えを明快に説明できるようにすることである。授業計画については、まずカント倫理学の考え方を学ぶために、尊重や尊厳、平等や公平性などについて考察する。次に功利主義の倫理学の基礎理論を学び、それを応用して動物倫理学の問題について考察する。その後は「恥」という身近な道徳感情を取り上げ、最後に「悪」とは何なのかという問題について考察する。	
	現代の倫理	本授業では、現代社会の中で私たちが遭遇する様々な倫理的問題、特に刑罰や格差・差別の問題について哲学的に考察する。授業は講義形式で行う。本授業の目標は、刑罰や格差・差別に関してどのような倫理的問題があり、どのようなアプローチがあるのかを把握すること、そして倫理的問題について深く掘り下げて考察し、自分の考えを明快に説明できるようにすることである。授業計画については、まず授業の前半では、復讐をすることはよいことなのか、なぜ刑罰を科すのか、応報は正義なのか、死刑は存置すべきかといった「罰」にまつわる問題を考察する。後半では、格差は是正すべきなのか、是正すべきだとしたらどこまで是正すべきなのか、差別はなぜ起こるのか、差別の問題に対してどのようなアプローチをとるべきなのかといった「差」にまつわる問題を考察する。	
	現代と宗教	本授業では、①本授業で取り上げる様々な宗教についての基本的な事柄や伝統宗教と新宗教の違いなどをしっかり説明できるようになること、②海外旅行に出かけたり、商用で海外に赴任したりしても困らないように、行き先の国の宗教文化をふまえた適切な行動がとれるようになることなどを、科目の到達目標としている。そのために、この授業では、まず、仏教、キリスト教、イスラーム(イスラム教)などの伝統宗教について、それらの成立と発展のプロセス、さらには基本的な教義やそれに関連する宗教文化などを学修する。その上で、日本の新宗教の特徴と系統別の分類などについて講義し、さらには、一部の隔離型の新新宗教(第4期の新宗教)の問題点についても指摘し、受講者がそれらの宗教団体の布教活動に知らないで関与することのないようにも留意していく。講義形態としては、特定の教科書は使用せず、そのつど講義資料を配付し、それを使用して講義をする。	
	人文地理学	地理学は幅広く地球上の自然・人文現象を扱う学問であり、アプローチの仕方によって大きく系統地理学と地誌(学)に分類できる。本授業の人文地理学は系統地理学に属し、人と自然の結びつきや、人間生活そのものを対象として世界のさまざまな課題に取り組み、その解決法を探究する学問である。本授業では、特に「空間」、「場所」、「スケール」といった地理学の主要概念について理解し、日常の身近な出来事からニュースや新聞で扱われる大事件まで、社会を読み解く「ツール」としての人文地理学を理解し、人間の諸活動に対する地理学的な洞察力を身につけることを目標とする。	
	教育学入門	本授業では、「教育とは何か?」という問いを持ちながら、教育を対象化して捉えることを目指す。また、「学校で何を学ぶのか?」という問いのもと、戦後教育史の全体像をつかむ。本授業を履修することで、「教育とは何か」「学校で何を学ぶのか」という問いについて、自分の考えを形成することを到達目標に掲げている。なお、授業の中ではプリントとビデオを用いた講義を中心とし、思考や課題解決の場面を設けるなど、アクティブラーニングの要素も取り入れる。	
	現代と教育	本授業では、様々な教育問題に関して、制度的な側面、政策の動向、統計データ、歴史的な経緯、マスコミによる報道の状況など、多角的な観点からの考察を行う。扱う問題は、学校教育の制度、内容、生徒指導に関するもの、家庭や地域社会との関連に関するもの、学校教育と社会との関連に関するものなど多岐にわたる。なるべくその時期に話題になったことに関連させてその歴史的経緯、海外との比較などを行いながら取り上げる。本授業では、様々な教育問題について、経緯や背景を理解したうえで、様々な方向から考え、論じることができるようになることを目指す。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際共創学部国際共創学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目 広域科目 ①思想と文化	芸術学入門	本授業では、「現代美術」が出現してきた歴史的背景、およびその歴史的展開、つまり西欧の伝統美術とその切断から生じた「現代美術」の出現を概観し、多様な主張と特徴を持つさまざまな各流派の歴史的展開や代表的な作家の作品を紹介する。また「現代美術」の批評のあり方も視野に入れつつ、現代において「現代美術」をどのように扱えばよいかを論じる。本授業を通して、「近代」という時代の特殊性について、近現代美術を学ぶ中で考察を深め、歴史感覚を獲得することを目標とする。	
	美術史	本授業では、①西洋美術を理解するうえで重要なイコノグラフィ（図像学）に焦点をあてる。古代ギリシア・ローマ神話やキリスト教美術でよく目にするアトリビュート（持物）を知ることで西洋美術が身近な存在になる。また、②フランスにおける様々な美術様式の違いに着目しながら西洋美術史の大きな流れを学ぶ。代表的な美術作品を知ることによって旅行や美術館巡りを楽しむことができ、西洋美術の基本的な知識は一般教養としても役立つ。本授業の到達目標は、①ヨーロッパにおける歴史的背景を知る、②西洋美術の代表的な作品の見方を学ぶ、③美術様式の流れを理解する、の3点である。	
	日本文化論	本授業では、主に近世の漢詩や絵画、建築等の作品を取り上げるとともに、日本における茶文化の歴史を、栄西、足利義政、千利休、売茶翁、上田秋成など、そこに深く関わった者たちの文献や茶道具、茶室、茶庭、芸術作品などを読解しつつ外観する。本授業を通して、日本の茶文化の歴史についての理解を深めることを目指す。	
	日本語表現	本授業は、大学で、レポートや卒業論文などアカデミックな文章を書くための初歩スキルとして、日本語運用能力を訓練する科目である。全15回の講義を通して、「書く」だけでなく、「聞く」「話す」「読む」といった日本語による総合的なコミュニケーション能力の向上を目指すほか、大学の授業で必要となるスタディ・スキルの獲得も目的とする。授業形態は、個々の受講生によるレポート作成の実践と、ペアワークやグループワークを多用した協働学修から成るアクティブラーニングである。	
	文学入門	本授業では、その時々時代の文学の特性と文学的感性の大切さについて考察する。小説、詩、エッセイ、短歌、俳句と様々なジャンルの文学が我々の周りにはあふれているが、長く読み継がれる名作とはどのようなものだろうか。時代、社会、そしてその時の人間の「気分」を反映させた作品にこそ魅力がある。本授業では、そんな文学の名作を取り上げ、内容や背景、魅力を解説する。そして、自らそれらを読み解く力を培うと共に、理解を深め自分なりの見解を持つことを目標とする。	
	日本の文学	日本の文学は日本人の英知として受け継がれてきたものであり、それぞれの時代の文学は当時の日本人の精神のありようが鋭く描き出されており、いわば各時代の代表とも言えるものである。日本文学の世界には、私たちの人生の道しるべが無限に詰まっている。本授業では、日本の文学に親しみ、文学と現実との関係の理解を深め、基礎知識と読解力を身につけ、完成を養う。また、読み取った文学の内容について、自分なりの見解をもつことを目標とする。	
	中国の文学	本授業では、現代社会に生きている私たちは外国の文学作品を通して、他者と異国の文化や歴史について学ぶ。授業では中国の近代文学、特に魯迅・周作人・張愛玲・蕭紅・郁達夫を中心に、彼らの作品を読んで説明する。また、これら以外の中国現代文学作品も適宜紹介する。本授業を通して、これらの作品を通じて中国近現代の課題に触れることができ、近代中国の独自性とは何であったのかを理解できることを目指す。	
	欧米の文学	本授業は、主としてイギリスの文学作品を題材に、イギリス社会と文化の特質を考察する。授業のテーマである「階級」「田舎と都会」「結婚・恋愛」「ジェンダー」「植民地主義」をもとに、ルネッサンス期以降の代表的な作品を取り上げ、文学と社会の関係性を探っていく。授業では、作者および取り上げる作品の内容を紹介し、上述の主要テーマを足掛かりに、作品から見えてくるイギリス社会について解説を行う。各テーマと作品の分析方法について一定の理解を経た後は、受講生自身が実際に作品の分析を行う。授業の目標は、英語圏（イギリス）文学について知識を深め、上述のテーマに基づいて作品を読み解き、自身の解釈を論理的に表現できるようになることである。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際共創学部国際共創学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目 広域科目 ②歴史と社会	歴史学入門	「歴史とは現在と過去との対話である」というE.H.カーの有名な言葉が示すように、歴史を学ぶということは、現代社会のことを深く考え、認識することにつながる。こうした観点から、本授業では、過去の事実を暗記することではない歴史を学ぶことの本当に意味や、時代区分法など歴史学に固有の方法論などを基礎的なレベルで講義する。本授業を通して、歴史を学ぶことの意味や歴史学に固有の方法論等を理解し、自ら説明できるようになる。	
	日本の歴史	日本の大衆文化は、世界的な新思潮の流入と、大正期から昭和初期の都市化に起因する「モダニズム」と呼ばれる現象によって大きく変容した。この現象は現代社会にも通じる点で歴史的でありながら現代的であるとも言えよう。本授業では様々な分野におけるモダニズムに関する具体的な問題を取り上げて、この現象がいかなるものであったのかを考えたい。本授業を受講することで、日本の都市文化の形成および現在の文化とのつながりを説明できることを目指す。	
	アジアの歴史	本授業は、前近代の朝鮮と日本との関係について、両者の政治的な関係、知識人の相互認識を中心に解説を行う。授業内で、短答式の課題に取り組むこともある。本授業の目標は2つある。1つめは、前近代の東アジア世界における朝鮮と日本との関係の推移を理解できるようになることである。2つめは、朝鮮と日本の知識人たちの相互認識の特徴を、時代背景や深層心理などを念頭に置きながら理解できるようになることである。また、本授業は大きく3つの部分から構成される。1つめは、中世から近世の日朝関係についての解説である。2つめは、近世日本の知識人の朝鮮認識についての解説であり、主に雨森芳洲や中井竹山に注目する。3つめは、近世朝鮮の知識人の日本認識についての解説であり、主に金誠一や李星湖に注目する。	
	ヨーロッパの歴史	本授業では、われわれがその中で生きている現在のグローバル世界は、近代における、すなわち過去およそ500年ほどにわたるヨーロッパ世界の拡大(グローバル化)の帰結であることに鑑み、ヨーロッパの歴史をふりかえるとともに、とりわけ近代ヨーロッパ世界で成立した独自の世界システムの特質や、その近代における展開を講義する。本授業では、ヨーロッパの歴史を通じて、現在のグローバル世界の成り立ちやそのシステムを理解し、自ら説明できるようになることを目指す。	
	政治学入門	政治学は、人間が一人では生きていけないことを大前提に、集団のあり方を考察する学問である。本授業では、近代において特殊な位置を占める集団すなわち国民国家を主たる対象とする。現代の先進諸国は自由民主主義を体制原理としているが、その中で新自由主義と福祉国家という対極に位置する二つの考え方が競合している。授業ではこの二つの考え方について実例を交えながら紹介する。加えて、現実政治に大きな影響を与えているナショナリズムについても紹介する。受講生が、それらを踏まえ、秩序だった思考をして、自分なりの評価を下せるようになることが目標である。	
	現代の政治	「政治学入門」においては、自由民主主義を前提としてそこに含まれる諸類型の比較検討をするのに対し、本授業では、ファシズム・全体主義・権威主義といった非自由民主主義体制との比較を含め、自由民主主義の制度的特徴および市民のあり方について紹介する。具体的には、議院内閣制や大統領制などの政府の形態から始まり、選挙制度、政党システム、利益団体、官僚制、立法過程、情報政策、マスメディアといった制度の紹介を行う。さらに、事実と規範の両面から市民について論じる。受講生が、以上の授業内容を踏まえて、秩序だった思考をして、自分なりの評価を下せるようになることが目標である。	
	法学入門	「法学入門」の前半では、初めて法学に接する学生を想定し、法の特色、六法の使い方、条文の読み方、基本用語、裁判制度、公法(憲法)、私法(民法)の三大原則など、最も基本的な内容を解説する。後半では、「大阪経済大学の法学入門」として、経済法の概要を解説する。授業は講義方式により行い、質疑は授業の終了後に個別に対応する。法学分野の入門的知識を得るとともに、他の法学科目を履修する上での基礎、前提を確保することを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際共創学部国際共創学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学 共通科目 広域科目 ②歴史と社会	現代の法	本授業では、わが国の現行の刑事司法制度に焦点を合わせて、その具体的な制度の仕組みや運用の実体について、適宜質疑を交えながら、講義形式で解説する。具体的には、刑事手続（捜査・裁判・行刑）や刑事制裁に関わる法制度、更生保護に関わる法制度、被害者保護に関わる法制度、および少年司法制度の概要のほか、個別の犯罪現象として児童虐待、DV、ストーキングといった親密圏における犯罪や経済犯罪といった現代社会の特徴的な犯罪とその処罰規定を取り上げ、具体的な制度の運用や犯罪の実体に関して学修する。これらの学修を通して、履修者は、刑事司法制度の概要を理解するとともに、そこに含まれる現在の課題や市民と刑事司法制度の関係性について関心をもち、法的観点から意見を述べることができるようになることを目標にする。	
	日本の憲法	本授業では、日本国憲法の規定する、人権と統治機構の領域について、現状と課題そして今後の展望を検討する。講義にあたっては、当該領域の判例を多く取り上げ、憲法上の論点について解説、考察するという方法をとる。その際、訴訟当事者の実態を詳細に辿っていくことを心がける。憲法が生活と密接に関わっていることを受講者に意識してもらうためである。到達目標は、日本国憲法の諸規定を理解し、体系的に把握できるようになることである。	
	経済学入門	本授業では、ミクロ経済学およびマクロ経済学の基礎的な知識を身につけることで、経済学の全体像を把握することを目的とする。ミクロ経済学では、モノ・ヒト・カネに対する需要と供給を反映しながら、市場でどのように取引が成立し、価格が決定されるかを学ぶ。また、市場取引の効率性や失敗について考える。マクロ経済学では、ミクロ経済学の考え方を拡張しながら、日本や世界各国における不況や経済成長の原因を探り、金融財政政策の効果について考える。本授業を通して、「市場取引の有用性と限界」「不況の原因と対策」などを論理的に理解することで、学生が様々な現実経済の諸問題を主体的に発見し、その解決の道筋を立てることができる。また、経済学における基本的な考え方や分析手法の基礎を学ぶことで、幅広い教養と実践的な知識を修得できる。	
	現代の日本経済	本授業のテーマは、「日本経済の現状と課題」である。本授業では、様々な経済問題を考えるうえで基礎となる金融制度の仕組みと金融システムに対する理解を通して、現代日本経済の現状と課題を初學者でも理解することを目的として講義する。本授業の到達目標としては、以下の3点を掲げている。①金融システムの基礎について理解し、解説できるようになる。②日本の金融システムの特徴を理解し、解説できるようになる。③日本が直面する今日的な金融経済問題をどのように解決すべきかを考察できるようになる。授業計画の主要な内容としては、金融の基本的機能の理解をはじめとして、日本の金融システム、銀行等の金融仲介機能、そして、日本の中央銀行である日本銀行の役割を通して日本の金融政策を概観する。	
	経営学入門	本授業は、経営学の基礎的な知識と理論を理解できることと、企業の経営行動や特徴を体系的に理解できることを目標としている。企業は現代社会において最も重要な経済主体である。企業の経営活動や特徴を理解することが、経済全体の動きを把握するためのカギとなる。本科目では、経営学を始めて学ぶ学生を対象に、経営学や会社の中で常識としてよく使われている専門用語や基本概念について学ぶ。企業経営の仕組みや理論を学修することにより、企業経営の全体像を理解していく。授業は、主にレクチャー形式でパワーポイントなどビジュアル資料を利用して解説する。随所に新聞・雑誌記事やドキュメンタリーを取り入れて理解を深めていく。	
	現代のビジネス	私たちの日常生活は企業の事業活動すなわちビジネスと密接にかかわっている。例えば大学卒業後、多くは雇用者としてかわりを持ち、なかには自営業者としてそれを創り出す場合もある。それだけではない。消費者としてのかかわりがある。商品を購入する際、私たちは特定のブランドを選択する。企業は消費者から選ばれるために、ブランド構築に多大な努力を傾けている。強いブランドとは何か。それはいかに構築されるのか。卓越したものづくり、取引先や顧客との良好な関係づくり、さらには組織設計、経営者の優れたリーダーシップ、といくつもの要因があがる。これらに対して経営学は示唆を与えてくれる。本授業は経営学の基礎知識を修得し、ビジネスの実際を多面的に読み解けるようになることを目的とする。講義の前半にて経営学の全体像を俯瞰し、後半ではとりわけ市場戦略の視点から、ブランド構築をめぐる現代のビジネスについて事例を交えて検討する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際共創学部国際共創学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目 広域科目 ②歴史と社会	社会学入門	「社会」とは何か？これが社会学を勉強し始めて間もない学生が、最初につぶかる疑問である。それは、人間と人間の関りそのものであり、人間と人間が関わって作る集団であり、集団と集団の関りであり、集団と集団が関わって・・・、つまり人間の関りすべてを指している。社会学は、そのすべてを研究の対象としている。本授業は、社会学を専門としているわけではない学生を対象として、「社会学」という学問の羅針盤を示した上で、これに興味を持ってもらうとともに、基礎的な理論体系を修得させることを目的としている。具体的には、都市・地域、労働、家族、ジェンダー、階層・階級、高齢社会と若者、ポップカルチャー、エスニシティ、宗教、社会病理、メディア、消費社会、グローバリゼーションなど具体的な事例を用いて、社会学的な考察の楽しさや魅力を示していく。また、アクティブラーニングの技法を用いて、効果的な授業運営を目指している。	
	現代社会論	本授業は、現代社会のあり様について、社会学の基礎概念を学修しながら考察していく。現代社会が抱える社会問題について、トピックを紹介しながら社会学的に論じていく。本授業は、社会学を専門としているわけではない学生を対象として、「社会学」というツールを使いながら、これに興味を持ってもらうとともに、受講生が現代社会の具体的な社会事象を自分なりに社会学的に分析できるようになることを目的としている。具体的には、モダニティ、グローバリゼーション、リスク社会、信頼、液化化社会、格差と不平等、家族の変容、性と愛、アイデンティティ、親密性、ジェンダー、少年犯罪、ネオリベラリズム、地球温暖化、環境倫理、動物倫理など、1回の授業ごとに具体的な事例を用いて、社会学的な考察の楽しさや魅力を示していく。また、アクティブラーニングの技法を用いて、効果的な授業運営を目指している。	
	考古学	なぜ考古学が必要なのか？本授業を通して考古学の理解を深めること、難しい学問ではないことを伝えたい。人類史を復元するために入手できる情報は古くなるほど少なくなる。そのため破損、消滅しにくい考古資料に限られる。日常一般的なことは記録には残らない。考古学はヒトが遺したモノを通して研究する学問である。文献資料は勝者の歴史であり、敗者の歴史は遺らない。考古学ではモノを通して伽枘的に提示することができる。そのため考古学の学問としての意義は過去の人類の歩みを通して文化の発達、生態系の破壊、戦争と平和など、人類が抱える矛盾を克服し、未来の人類のあるべき姿を見据える英知を学び、将来に伝えることである。このことを本授業で具体例を示し学修、理解することを目的とする。	
	民俗学	本授業では、私たちの身の回りで生じる出来事や物事に相当する民俗について、社会変動や時代経過を経て形成されてきたことを具体例に沿って学ぶ。また、身の回りの出来事や物事の形成過程を知ることで、私たちの生活や人生といった生（ライフ）が実際には経験や感情の入り混じる多様で個別なものであることを確認する。そして各自の設定したテーマに沿って、過去の人びとの生活や人生を調べることで、これからの私たちのあり方について内省的に考える。	
	大阪の経済と文化	本授業では、都市格の構成要素を分解しながら、大阪で生まれた企業から見られる文化的土壌を概観し、今後の大阪の都市格向上のあり方について学ぶ。現在、企業の立地選択が「国」から特定の「都市」へ移る中で、人や情報などの資源も特定の「都市」に集中しつつあり、社会経済活動のグローバル化によって、都市間競争が一層激化している。人口や経済が右肩上がりの時のように、どの都市も同じように成長してきた時代が終わり、各都市が独自性を発揮して、生き残りをかける時代に突入したといえよう。こうした環境変化を理解し、大阪が数十年來の凋落傾向に歯止めをかけ、再び「都市格」を取り戻し、選択される都市になるために、何が必要であるのか、過去に培ってきた経済と文化的背景を学ぶことで、それを強みとして活かす視点を養う。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際共創学部国際共創学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目 広域科目	② 歴史と社会	大阪経済大学の歴史	本授業は、大阪経済大学の創立90年の歴史と建学の精神「自由と融和」および教学理念「人間的実学」を学ぶ。また、初代学長である黒正巖博士の生涯と学問を学び、博士が残された「道理貫天地」「研学修道」の言葉の意味を学ぶ。そして、これらの理解を通して大阪経済大学学生としてのアイデンティティを形成し、自信と誇りをもって大学4年間を過ごすための「大経大プライド」を身につける。さらに本学のミッションにある「創発」「商都大阪」という言葉に込められた思いを理解するとともに、今後、他者との対話を通じた新たな価値を生み出し、大阪経済の活性化に貢献するために、学生生活をどのように送ればよいのかについて考える機会とする。
	③ 健康とスポーツ	スポーツ実技A	身体活動は体力を高め、将来的な病気やケガの予防となり、メンタルヘルスの改善に影響を及ぼすことから、心身ともに健やかな生活を送る礎となる。また、身体活動は、多様な人々と課題を共有し、対応するため、他者とのつながりを感じることができる。本授業では、受講者がそれらの知を活かし、身体活動を主体的に実践できるようにするためのきっかけとして、様々なスポーツや体づくり運動を経験し、体を動かすことの楽しさを体感してもらう。さらに、受講者が、受講後、卒業後の余暇活動において多様な人々とともに、定期的なスポーツ実施や、健康増進の機会創出できるよう繋げていく。
		スポーツ実技B	身体活動は体力を高め、将来的な病気やケガの予防となり、メンタルヘルスの改善に影響を及ぼすことから、心身ともに健やかな生活を送る礎となる。また、身体活動は、多様な人々と課題を共有し、対応するため、他者とのつながりを感じることができる。本授業では、受講者が様々な身体活動の中でリーダーシップを発揮しながら、多様な人々と課題を克服する場を提供する。さらに、受講者の受講後、卒業後の主体的な身体活動実施に加え、社会活動において多様な人々と協働できる礎としていく。
		スポーツの理論	スポーツは社会を映す鏡だと言われる。それゆえ、最先端の問題から古くからの悪しき慣習も同居している。本授業では、スポーツにおける光と影の部分に焦点を当て、スポーツを多方面な角度から講義する。現代におけるスポーツの理論をスポーツの歴史、体罰、ツーリズム、スポーツ医学、運動生理学、スポーツ政策、データ解析などを国内外の豊富な事例から解説する。また、社会で話題となる最新スポーツ情報も豊富に盛り込んでいく。
		レクリエーションの理論	今日、豊かな人生を送るためには、有意義な余暇の過ごし方が大きな鍵となる。余暇を有意義な時間にするためには、レクリエーションが担う役割は大きい。そのレクリエーションの一つとして、スポーツが存在し、スポーツには、スポーツを行うだけでなく、スポーツを観ることも含まれる。このような背景から、レクリエーションの重要性について理解でき、有意義な余暇が実践できることを目標に授業を展開している。本授業では、豊かな人生を送るためのレクリエーションの意義について理解を深める。次に、日本におけるスポーツ、オリンピックについて、社会学的視点から考察する。具体的には、レクリエーションの歴史的背景と機能、活動実態について解説し、その意義を考察する。さらに、スポーツの公共性、オリンピック、スポーツ文化、政治とスポーツ、経済とスポーツについても解説する。
		健康増進の理論	健康とは、人間の活動すべてにおける土台であり、健康の維持・増進のためにこれまでにさまざまな分野からアプローチがなされてきた。日本における高齢化の進展や疾病構造の変化に伴い、国民自らが健康の維持や増進について理解を深めることが求められ、健康づくりや疾病予防を積極的に推進することが必要とされている。本授業では、健康増進に関連する問題のうち、教科書レベルの内容にとどまらず、当該分野の課題や海外の状況など、多角的な側面から健康について学修する。
	④ 自然と生活	地理学入門	本授業は、地理学の考え方や基礎的知識、主な手法などを学ぶ入門講座である。地理学は私たちの生活に深く関わる学問である。例えば普段、CMや広告などで目にする店舗情報などの地図も地理学の一分野である地図学という学問が関係している。人口問題や社会構造に関することも地理学に関係している。本授業のテーマは高等学校まで学んできた「地理」と「地理学」の違いを理解したうえで、学問としての地理学から物事をどうみるか・考えるかを自然地理学と人文地理学のあゆみから学ぶ。また、その手法として、他の学問でも用いられる文献や統計資料の基礎的な使い方や、地理学ならではのツールである地図をいかに読み・活用するかを学修する。

授 業 科 目 の 概 要			
(国際共創学部国際共創学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目 広域科目 ④自然と生活	地誌	地誌は、系統地理学とならぶ地理学の柱のひとつであり、場所についての固有性を考察する学問である。つまり、地誌とは特定の国や地域について、自然、歴史、社会、人間生活などさまざまな角度から考察する学問といえる。内容としては、広域に渡る地理学を特定の地域に狭め選定するため、ある意味で地理学を細分化した学問ともいえる。本授業では、前半は世界の各地域からいくつかの国・地域を対象にして、それぞれ民族、産業、都市問題などに焦点をあて、後半は現代日本の地域性・県民性や、地域・都市問題に焦点をあてながら、メディアで取り沙汰される問題についての理解を深める。	
	数学入門	新しい時代を生きる職業人として必要な思考力と課題解決能力に資する視野の鍛錬のために、数学という抽象思考の賜物を連続講義の形態で学ぶ。本授業では、代数学という分野の「群」を講じる。「演算」と言い換えた方が解りやすいが誤解も生じうる。群論そのものを伝えるのではなく、いくつかの例を通して、各々の固有の面白みを学びながら、抽象的な演算について学生が各々の理解をもつことを期待する。到達目標として、例えば、あみだくじでどういことが起きるかをいくつかの視点から理解できるようになることや、倍数の判定について根本的な理解を得ることを目指す。	
	現代の数学	新しい時代を生きる職業人として必要な思考力と課題解決能力に資する視野の鍛錬のために、数学という抽象思考の賜物を連続講義の形態で学ぶ。本授業では、位相幾何学という分野でいくつかの話題を講じる。講義での主たる対象は曲面を取り扱う。いくつかの見分ける指標や特性について学生が各々の理解をもつことを期待する。到達目標として、現代の数学では図形(空間)をどう理解し、識別するのか、そのためにどういう指標があるのかを理解し、授業を通して「実感を持つ」状態に近づくことを目指す。	
	物理学入門	物理学は、自然現象をつぶさに捉え、自然界を支配する基本的な法則を見つけ出す学問である。また、見いだした法則を現象に適用し、未来の状態を予測できる学問でもある。そのため、それ自身で閉じた学問では無く、様々な科学や工学などの分野と関係している。本授業の目的は、物事を物理的にとらえる方法を理解することにある。本授業を受講し、物理的な視点を身につけることができれば、身近な現象をこれまでと違った観点からとらえることができるようになる。	
	現代と物理学	20世紀以降、相対性理論や量子力学が構築され、それまで知られていなかったミクロの世界やマクロの世界が明らかになってきた。そこで得られた知識が、現代社会の様々な場面で応用され、私たちはその恩恵を受けた上で日常生活を送っているが、物理学が具体的にどのように関わっているかはあまり理解されていない。そこで、本授業では、具体例をいくつかとりあげ、物理学が現代社会でどのように関わり、活用されているかを学ぶ。	
	化学入門	本授業では、高校時代に化学を履修していない学生や化学が苦手な学生も化学に興味を持って、楽しみながら化学の基礎について学ぶ。図や絵などを取り入れ、理解困難なところは繰り返し説明していくので、この授業を通して、原子の構造、化学結合、溶液の濃度、酸と塩基、酸化と還元などの化学の基礎を理解した上で覚えて、計算もできるようになるなど、基礎知識をしっかりと身につける。そして、周りの出来事を化学的な視点からも見られるようになる。	
	現代と化学	本授業では、新聞やテレビ等でニュースになっている化学に関係する物事や、身近な化学に関する物事を取り上げ、話題にする。例えば、薬の飲み方、放射線、環境問題、生体内で起こる化学反応などを取り上げ、様々なテーマについて化学的な視点から学ぶ。そして、物事を化学的に考えて、正しい知識をもとに行動できるようにする。また、できるだけ多くの化学的知識を得て、その上で周りの出来事に対して化学的な視点からも意見を持てるようになる。	

授 業 科 目 の 概 要				
(国際共創学部国際共創学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
全学共通科目 広域科目	④自然と生活	宇宙の科学	宇宙とのつながりを日常生活において実感する機会は少ないかもしれないが、太陽では太陽フレアという表面での爆発が頻繁に起きている。太陽フレアは、電波の通信障害やGPSの位置精度の悪化へつながる磁嵐やオーロラ、さらには、広範囲の停電の原因となることがある。月や火星などへ人類の活動範囲は広がりつつあるため、太陽フレアによる放射線被曝への対応もますます重要になる。さらに、人類が太陽系外で活動を展開する時代には、恒星の大爆発や銀河同士の衝突のせいで生存の危機に遭遇する可能性もあるかもしれない。このように、私たち人類の活動は宇宙と非常に密接に関わっており、常に「天災」にさらされている。本授業では、さらに宇宙の進化を概観し、授業を通して宇宙を全体としてとらえる。	
		地球の科学	本授業では、固体地球（地球内部、大地）の性質がどのように理解されているのかを講義する。大地の変動に関する現象は、プレートテクトニクスという考え方で説明できる。この考え方を理解するための基礎として、まず、地球の内部構造や固体地球の基礎的な性質（重力・地震波・地磁気など）を紹介する。そして、大地の動きがどのように研究されてきたのかについて話を進め、プレートテクトニクスと地殻変動現象（地震・火山活動など）について理解を深めることにする。本授業を通して、固体地球に関する基礎的な性質を理解すること、地球内部構造や大地の動きに対する研究がどのように行われてきたのかを知ること、プレートテクトニクスの概念を用いて地殻変動現象のしくみや大地形の成り立ちを説明できること、を目標とする。	
		自然地理学	自然地理学は自然環境と人間社会の相互関係を追究する学問領域であり、その分野は地形学、気候学、水文学など多岐にわたる。自然環境は岩圏、気圏、水圏、そして生物圏から構成されるが、本授業では、とくに地球上の水の発生・循環、そして水災害などの問題について解説する。人類に限らず地球上に住む生物にとって水は生活を左右する重要なものであり、私たちは日々恩恵を受けている。しかしながら、それらの相互作用はしばしば人間社会にとっての災禍を発生させてきた。本講義ではとくに自然災害が発生するメカニズムから自然地理学の基礎および、自然地理学と人間社会の関わりについて学ぶ。	
		生物学入門	本授業では、ヒトの身体構造と機能や、行動の適応的な側面について、進化的な視点から理解を深めることを目的とする。到達目標としては、進化的な視点からヒトとヒト以外の霊長類の身体構造と行動の成り立ちを説明できるようになる、世の中のさまざまな事象の機序について考えることができる思考力を養う、これらを掲げている。全授業はおおまかに以下の4つの内容、①進化論の歴史、②霊長類の生態、③ヒト属の進化、④いわゆる人種について、から構成される。	
	⑤データサイエンスと数理	データサイエンス概論	本授業では、数理・データサイエンス・AIの全体像を把握することを目的として、現代社会における仕事や生活の中でAIやデータサイエンスがどのように利用されているか、どのような活用方法があるか、そしてどのような課題があるのかを学ぶとともに、統計学をはじめとするデータサイエンスで利用される手法を幅広く学ぶ。そのために、次の3つの到達目標を掲げて、アクティブラーニング手法を取り入れた実践的・参加型授業を実施して、総合的な知識の獲得とともに、思考力と問題解決能力の向上を図る。 ①現代社会におけるデータサイエンスやAIの現状や役割について理解し、説明することができる。 ②データサイエンスやAIを利活用する際の留意事項（個人情報、データ倫理など）について理解し、説明することができる。 ③目的に沿って必要なデータを集め、適切に加工して分析し、グラフや図解を駆使して自分の考えを表現することができる。	
		統計学入門	本授業では、統計学を学ぶにあたり必ず知らなければいけない次の基礎知識、①資料およびデータの分析、②統計データの整理方法、③確率および確率変数の基礎、を理解して身につけることを授業の目的としている。到達目標は、①度数分布表やヒストグラムを作成して資料およびデータの分析ができるようになる、②各種代表値などから各種統計データを整理するための基本的知識を得る、③確率、ベイズの定理および離散確率変数についての基礎知識を得る、ことである。	

授 業 科 目 の 概 要				
(国際共創学部国際共創学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
全学共通科目 広域科目	⑤ エンデュースタとサイ理	現代と統計	本授業では、統計学でよく用いられる二項分布、ポアソン分布および正規分布について理解し、さらに統計学で得た知識を用いて現実問題を解決するための応用力を養うことを授業の目的としています。到達目標は、①離散確率変数とこれを用いて表される二項分布およびポアソン分布を理解し、社会問題に応用する能力を身につける、②連続確率変数とこれを用いて表される正規分布を理解し、各種の社会問題に対して応用し分析する能力を養う、③カイ2乗分布、t分布と自由度についての概略を理解する、ことである。	
	⑥ キャリア形成科目	キャリアデザイン	本授業では、自らのキャリアを形成する力を身につけることを目標とし、自己理解と社会理解について講義をし、学生同士の対話、レポート等で言語化する。具体的にはキャリアデザイン理論を学び、大学の学びや大学生活をどのように過ごしていくべきかを計画をし、実践する。それらの実践の過程から社会がどのような人材を求めているのかに気づき、自らのありたい社会人としての姿をイメージする。バックキャストイングの手法で自身のありたい未来の姿の実現のために今の自身の行動を内省する力を身につける。自らの価値観に基づいて論理的に考え、目標を立てて行動する力を身につけ、充実した学生生活及びその先の職業の選択、職業生活につなげることを目指す。	
		インターンシップ	本授業では、企業でのインターンシップ(就業体験)を通じて、実社会における職業人の考え・行動の一端を体感しながら、大学で学んだ専門知識の活かし方、自分自身の職業人としてのあり方について考えを深める。インターンシップの事前準備として、インターンシップに際して必要な準備を考え、企業で働くというのはいかように、仕事の意義や本質について考え、業界や企業を研究する手法を学ぶ。同時に自己分析を行い、自身の能力、適性、熱意について考え、自身の職業人としてのキャリアに向き合う。事後学修を通じてインターンシップで得た経験を振り返り、今後の学生生活や職業人として経験をどのように活かしていくのかを考える。新しい時代を生きる職業人として必要な思考力と課題解決能力について共に考え、自身のキャリア構築の力を磨く。	講義 28時間 実習 40時間
		プレゼンテーション入門	本授業では、プレゼンテーションの理論を学び、テーマに沿って自ら調べ、情報を整理し、相手にわかりやすく伝えるプレゼンテーション能力を伸ばす。具体的には下記の2つを目標とする。決めたテーマに対して自ら調べ、整理し、スライドにまとめ、発表できること。他者にわかりやすく説明できること。テーマは進路を決める際に重要となる業界や企業を主とする。グループワークやディスカッションを通してテーマを分析し、資料にまとめてプレゼンテーションをすることで、社会に求められる主体性、協調性、リーダーシップ、論理思考力を高めることにつなげる。	
		論理的思考入門	本授業では、論理的思考を基礎から学ぶ。演繹法や帰納法といった基礎から始まり、MECE、フレームワーク、ロジックツリー、2軸のマトリックスなどの分析手法を修得する。さらに、こうした手法を使ったショートケースの分析をして課題解決のトレーニングを繰り返すことにより、段階的にレベルを上げていく。具体的には下記の3つを目標とする。①フレームワークを使って論理的に分析できること、②幅広いアイデアを発想して対策案を展開できること、③チーム内の討議に貢献し、論理的に整理して結論を導くこと、である。本授業を通して、論理的思考の基礎を学んでゼミや専門科目で磨き、社会に出たときに役立つ人材になることを目指す。	
		日本語表現演習(書き方)	本授業は、日本語の特性を踏まえて、「伝わる」文章を作成することを目指したライティング科目である。全15回の講義を通して、日本語の文章のルールと、レポート作成のルールを知ること目標とする。授業形態は、基本的には個人で書く作業が主となるが、適宜、ペアワーク・グループワークを取り入れたアクティブラーニングを導入する。留学生を対象にしたクラスでは、日本語能力試験1級レベルの語彙、漢字、表記を取り扱う。	
		日本語表現演習(話し方)	本授業は、学内発表をはじめ日常の様々な場面で必要となる「伝わる」話し方や、「伝える」ためのコミュニケーションの方法の修得を目指した科目である。全15回の講義を通して、声や表情の作り方、人を惹きつけるトーク内容など総合的なコミュニケーション力を身につけることを目標とする。授業形態は、個々の受講生の発話を主としたアクティブラーニングである。留学生を対象にしたクラスでは、各種テーマに関してよく使われる日本語表現について、ペアワークや発表などを通して実践的にトレーニングする。	

授 業 科 目 の 概 要				
(国際共創学部国際共創学科)				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
全学共通科目	広域科目	⑦ 共通講義	共通特殊講義	
学科専攻科目	(A) 基盤科目	(1) 入門科目	必修①	
		国際共創入門	<p>本授業では、山積している社会課題について、経済・社会・文化等の分野を問わず、課題解決に向けた活動に取り組む人々（企業、団体）を招き、活動内容に触れながら、学生と一緒に議論をすすめる。なかでも社会共通資本としての「公共」や、人々がともに新たな価値を生み出す「共創」の仕組みを創り出している主体に着目しながら、社会課題の解決方法の糸口を探る。</p> <p>本授業では、国際共創を学ぶ上での4つの領域（グローバル文化、国際社会、政策デザイン、社会創造）について基礎的な知識を学ぶことを目的としている。具体的には、「国際共創」では、何を学び何を目指すのか、国際社会にはどのような問題が存在しているのか、私たちがどのようにこれから国際社会に関わっていくべきか等について、国際共創学部でのカリキュラムも含めて分かりやすく説明するとともに、2年次からの専門科目選択の際の道標となる学びを複数教員によるオムニバス方式で講義する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(1 梅村仁/3回) 本授業では、最初に国際共創学部での授業の進め方と学修の要点について説明する。また、国際共創学部のカリキュラム説明も含めて学びへの将来展望の意義について講義を行う。次に、深まるグローバル社会に対して、国際共創学部ではどのように学び、教養と専門性を高め、ネットワークし、自己の成長に繋げていくべきかについて講義を行う。</p> <p>(3 熊澤輝一/3回) 本授業では、最初に人間がこれまで地球上にある資源をどのように使って社会を作ってきたかを整理する。また、現在の私たちを取り巻く地球規模の環境問題について学ぶ。次に、自然と共生するとはどのようなことか、デザインとは何かを考えた上で、自然と人間が影響を及ぼし合いながら、よい環境を創ることを学ぶ。次に、地域の過去を理解し、未来のあるべき姿を考える意義とともに、環境と文化を持続させるために様々な立場の人々が共同することについて学ぶ。</p> <p>(5 滝澤克彦/3回) 本授業では、「多文化共生」や「異文化理解」はいかにして可能かという問いと向き合うために、異質なものの出会いを通して自らの「文化」を相対化する方法について学ぶ。また、グローバル化する世界のなかで、他者の文化と自らの文化を包括的に理解する方法を、「越境」や「翻訳」などをキーワードに考察する。さらに、現代世界の重要課題である宗教とリスクの問題をとりあげ、グローバル化する世界をより深く理解するための枠組みについて学ぶ。</p> <p>(6 竹下智/3回) 環境の変化が著しく、将来が不透明で予測が困難なVUCAの時代には、ビジネスにおいても、他社や顧客などとの協業により、新しい価値を創出する共創が求められている。本講義では、まずビジネスにおける共創について概説する。次に、SDGsをキーとしてビジネス拡大につなげた事例、DXをキーとしたグローバルIT企業/コンサルティング企業と顧客との共創事例、ビジネスパーソンが市民として社会課題を解決する事例から、共創によるビジネス創造や社会の創造に関する意義を学ぶ。</p> <p>(14 友次晋介/3回) 本授業では激動する国際社会や、持続可能な平和の実現のための必要な条件について、理解や思考を深める理論的枠組みやキーワードを解説する。まず、国際政治研究や平和学研究が戦争と平和の問題についていかに取り上げてきたかを説明する。次に、枯渇性天然資源が紛争や平和にどう影響しているのか、様々な論議について解説する。最後に、使用すれば破滅的結果をもたらす核兵器をめぐる国際情勢、そして学界の論議について講義する。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(国際共創学部国際共創学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科専攻科目 (A) 基盤科目 (1) 入門科目 必修①	経済学概論Ⅰ	本授業は、人間行動の意思決定に利用できる経済ツールと分析アプローチの概要を説明するものである。具体的には、ミクロ経済学を利用して、企業、政府、個人の構造や意思決定、取引、契約などについて学ぶ。ミクロ経済学とマクロ経済学はすべての経済分析の基礎である。本授業では、前半のミクロ経済学や後半のデータ分析の経済学の基本的な仮説を提示し、現実世界の状況を調べる際にこれらの仮説が広く影響を与えることを説明する。	
	経済学概論Ⅱ	本授業では、ミクロ経済学、マクロ経済学を中心とした経済学の知識を理解し、経済課題の解決策について検討できるようになることを目的として、講義を行う。具体的には、市場の失敗、政府の失敗などの原因とその対策について、時事問題も取り上げながら学んでいく。ミクロ経済学パートでは、時間とリスク、市場の失敗、政府の失敗などの学修を通じて、ミクロ経済学についての理解を深めていく。マクロ経済学パートでは、ミクロ経済学とは異なる集計的分析を中心に講義を行い、マクロ経済学についての理解を深めていく。このパートでは、労働市場と賃金や経済成長などについて学修することにより、政策的問題を理解するために必要な知識を修得していく。これらの講義を通じて、経済学の知識を身につけ、経済課題の解決策を検討する基礎を養っていく。	
	社会学概論	社会学は、社会における現象の実体やその要因について、実証的に分析・研究する学問分野である。本授業では、社会や社会現象を分析していくために必要となる知識と視点について概観し、学修していく。具体的には、社会を構成する集団や組織、科学技術やメディア、社会で起こる人権問題、地域問題などを取り上げ、社会やその構成要素、課題について学修していく。これらの学修を通じて基本的な社会の捉え方を理解し、その上で、社会学的な視点で社会を分析し、課題を抽出し、解決するための手法を考える基礎を養うことを目的とする。 (オムニバス方式/全15回) (9 藤本典嗣/5回) 社会の課題を、産業・地域の視点から抽出する。産業構造の変容が都市・農村間や国家間の地域格差を拡大させてきた歴史やその解決策を、日本や諸外国の事例をもとに学修する。都市間格差にも焦点をあてる。21世紀に入り、情報通信革命により、特定の情報通信産業の立地がグローバル都市（ニューヨーク、ロンドン、東京など）へ集中的に立地していることによる格差拡大と、その解決策を学修する。 (16 河村賢/5回) 科学技術とメディアに関しては、まず知識の社会的基盤について論じてきた科学社会学・社会哲学の議論をまとめることで、社会についての科学的認識を目指す試みとして社会学そのものを位置付ける。次に具体的な科学者集団を対象に行われてきた社会学的研究の成果を紹介することで、役割や規範のような社会学の基礎概念を導入する。さらに人々の社会的実践を作り上げている社会規範が、現代のさまざまなメディアの中にも浸透し作動しているさまをエスノメソドロジーの視点から分析する。 (2) 難波孝志/5回) ますます情報化、グローバル化が進む中で持続可能な社会の構築を模索する現代における政治問題、社会問題を取り上げ検討していく。具体的には、情報の氾濫とそれに伴うコピー社会の出現とアイデンティティ、インターネットの発展に伴って人と人とのつながりを簡単に無かったことのできる友だち削除可能社会など、グローバル社会、ジェンダー、構造的差別問題を題材に、人と人との「つながり」について考えていく。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(国際共創学部国際共創学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科専攻科目 (A) 基盤科目 (1) 入門科目	情報化社会と技術	本授業では、情報化社会をどのようにして技術が支えているか理解する。現代のデジタル化が進んだ情報化社会は、特に2010年代以降、新たな技術(クラウド、AI、IoT、スマートフォン等)とビジネスの融合(デジタルトランスフォーメーション(DX))によって新しいサービス(ビジネスモデル)が次々と生まれている。現代のデジタル化が進んだ情報化社会やこれらのビジネスモデルは、ビッグデータ、新たな技術、インターネットなどで構成されており、その仕組みについて理解する。また、内閣府が提唱しているSociety 5.0(サイバー空間(仮想空間)とフィジカル空間(現実空間))を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会(Society)をベースに、デジタル化の二面性についてグループワークで検討することを通じて思考力、洞察力の養成を狙う。	
	データ分析と活用	本授業は、ビジネスにおけるデータ活用を志すにあたって、初心者向けにデータとは何かに重点を置き、データ活用の読み書きそろばんである「データ探索」「データ分析」「結果解説」などの基本について講義する。授業では、データで表すことができる社会や経済の事象について具体例を示すことで、データ分析や活用が身近な存在であることを理解することから始め、それらの解釈、説明方法など社会で活用されるシーンや手法について概観する。併せて、オープンデータ等を活用した簡易な分析と解釈についての課題を行うことで、専門科目へ進む際のデータ活用の手法を身につける。	
	社会調査法入門	本授業は、社会調査の概要や社会的な役割を理解し、学問および社会生活での課題に応じて調査手法の選択や既往調査データの活用をすることができるようになることを目的としている。具体的には、社会調査の起源から近代的な社会調査までの歴史、調査方法の諸類型、社会調査の結果例(実務調査(官庁統計、世論調査、マーケティング・リサーチなど)、学術調査)、社会調査の倫理、アンケート調査およびインタビュー調査の実施までの諸過程などについて、それぞれ基礎的な事項を解説する。	
	ロジカルシンキング	本授業は、ロジカルシンキングの基本的な考え方を理解し、課題解決の論理的なフレームワークを学ぶ。大学での主体的な学びとするため、グループワークやディスカッションの手法も取り入れ、双方向の授業を行う。毎回の課題を中心に、「要約」や「論述」をし、自分の意見や主張を論理的に述べる。主張を見抜く「視点」を学び、「批判的に考える力」「論理的に伝える力」を身につける。それらを集団の中で実践できるよう、具体的な事例をテーマとして使い、そのテーマに沿って情報を読み取り、自発的・客観的に課題をとらえ、問題解決の考え方を学ぶ。	
	Development of Multicultural Awareness	本授業は、多文化理解と英語力向上を目的として、ハワイ大学マノア校が実施する3週間のプログラムに参加する形式で実施する。ハワイは歴史的にも経済的にも日本との交流が盛んに行われてきた地域であり、英語学修や多文化理解の導入教育の場として適している。授業は、会話に重点を置きながら、学生が海外滞在で体験するトピック(挨拶や買い物等)だけでなく、歴史、社会・政治問題等に関連したテーマでディスカッションを行う。さらに、ワークショップやハワイ大学の学生との交流なども組み込み、ハワイの歴史や文化を学ぶ。実際に海外に滞在することで多文化を体感し理解すること、および、実践的で日常的な英語によるコミュニケーションスキルの修得を到達目標とする。	講義 4時間 実習 56時間
必修②	Basic English A	英語力を高めるためには、英語の基本的な知識が必要不可欠である。これまでに学修した英文法の復習や語彙力の強化をはかり、英語の4技能(リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング)を包括的に学修し、英語の基礎力を高める必要がある。本授業は、英語の基礎力を身につけることを目的とし、4技能をバランスよく学んでいく。リーディング・ライティングでは文章を読み、その内容を理解し、自分の考えを英語で書く力を養う。リスニングでは、英語の音の仕組みを学び、長めの英文を聞き取る練習を行う。スピーキングは、発話練習や会話を通じて、英語でコミュニケーションを取る態度を育成し、スキルを伸ばす。	

授 業 科 目 の 概 要				
(国際共創学部国際共創学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
学科専攻科目	(1) 入門科目	必修②	Basic English B	実践的な英語力を身につけるためには、基礎的な英語力を活かし、応用力を育成しなければならない。これまでに学修した基礎を復習し、英語の4技能(リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング)を包括的に学修し、英語力の強化をはかる必要がある。本授業は、英語の基礎力と応用力を高めることを目的とし、4技能をさらに高める。リーディング・ライティングでは文章を読み、その内容を理解し、自分の考えを英語で正確に書く力を養う。リスニングでは、様々な内容の英文を聞き取り、要約する力を身につける。スピーキングは、会話やプレゼンテーションを通じて自己表現力を高める。
		必修	国際経済論	本授業は、国際貿易の理論と政策、地域統合、国際機関、直接投資、多国籍企業、資本流動、外国為替市場そして国際マクロ経済学について学ぶ。前半部では、国際貿易の仕組みを理解する上で基礎となる概念について説明し、貿易パターンや貿易利益、さまざまな貿易政策とその効果や問題について学ぶ。後半部では、GATT/WTOなどの国際貿易のルール、FTAやEPAなどの地域貿易協定、労働や資本の国家間の移動、外国為替市場、貿易下での経済成長などについて学ぶ。
			国際社会論	本授業では、国境を越えて生じる様々なグローバル 이슈が、同時に私たちのローカルな日常生活と地続きな形で展開するさまを分析していく。具体的には、科学技術の高度化とリスクの顕在化、国家暴力とディアスポラの発生、移民と多文化共生社会の挑戦といった問題を取り扱う。いずれのイシューも20世紀の植民地主義と冷戦という歴史的経緯と不可分なことを学んだうえで、そうした諸問題を解決する道筋を展望する。
	(2) 基礎科目	選択必修①	国際文化論	本授業では、国際文化論の基本的な枠組みと考え方を学ぶことで、現代世界で生じている様々な問題を、異なる文化同士の接触にともなう相互作用、変化、生成、消滅などといった動きのなかで捉える方法を身につける。特に、前近代から近代、現在に至るまでの文化接触の在り方の変容に焦点を当てることで、グローバル化が進む現代世界の特徴を捉えなおす。それによって、みずから異文化と自文化のあいだに立ち、ものを感じ、考え、表現することができるような思考様式、感性、態度、実践的技術を修得する。また、後半の講義では宗教に関わる事象を扱うことで、現代世界で起きている問題の解決の難しさを認識した上で、それでもなお正解のない問いに取り組むことによって、それらの問題の深層に迫る能力を養う。
			グローバルビジネス基礎	現在、グローバル企業では、グローバルでの生産、販売、組織や人事などのプロセス構築のみならず、戦略提携やM&Aなど企業間のグローバルな再編成も不可避となってきた。これは、企業の競争優位がICTの進展したグローバルな競争環境に適合することがより重要になっており、ICTの発展とともに、グローバル化がより促進するようになっているためである。 本授業では、グローバル経営の特徴、多国籍企業による国際競争の歴史を理解したうえで、グローバル戦略と組織、マーケティング、SCM、R&D、人的資源管理、戦略提携、異文化マネジメントといった国際経営の基礎を体系的に修得する。また、現在グローバル経営に重要となっているソーシャルビジネス/CSV/SDGs/ダイバーシティ&インクルージョンなど今日的トピックスについてディスカッションすることで、グローバルな視点、思考力などの養成を狙う。
			経済情報分析	本授業では、人口、労働、物価、景気、企業、家計、政府、金融、国際経済、SNAの各分野について、初めに当該分野の現状、経済制度および課題、経済学的説明、作成されている統計資料の説明を行い、その後学生が実際に経済データの収集、データの理解、表やグラフによるデータの整理、簡単な統計分析およびシミュレーションに取り組み、日本経済の現状、課題、解決策への理解を深める。データは主にインターネットで公開されている統計・データベースから入手する。グラフの作成や分析、シミュレーションにはExcelを用いる。

授 業 科 目 の 概 要				
(国際共創学部国際共創学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
学科専攻科目	(A) 基盤科目 (2) 基礎科目 選択必修②	Global Issues	Since the nature of the problem, global problems are caused by external diseconomies and need to cross national borders to be resolved. Therefore, in this lecture, I will explain the basic factors of global problems and human behavior phenomena with examples, and explore solutions. This course is designed to teach students overview of global issues and active learning, including presentations and debates by student groups. グローバル問題は、問題そのものが外部不経済を伴い国境を超えて波及する。そのため、本授業ではグローバル問題の基礎的な要因と経済的事象の関連性を、事例を交え解説しその解決策について検討する。授業の進め方は、講義による概説と、学生グループによるプレゼンテーションやディベートを含むアクティブラーニングを実施する。	
		Japanese Culture	Daisetz Suzuki's Zen and Japanese Culture (1959) is one of the most famous books about Japanese culture written in English. In this lecture, we will mainly read Zen and Japanese Culture to learn about Japanese culture, especially Japanese tea culture. At the same time, we will also get some hints on how to explain Japanese culture to people from other countries. This lecture will proceed as follows. At first, we will read Chapter 1; What is Zen? and Chapter 2; Japanese Art and Culture. Then we will learn what Zen is and clarify the influence of Zen on Japanese art. Next, we will read Chapters 8 and 9; Zen and the Art of Tea, and Chapter 10; Rikyu and the Teamen. Then we will learn about "the Art of Tea (Chanoyu)" as a comprehensive art. In doing so, since it is a comprehensive art, we will also consider Japanese pottery, architecture, gardens, flower arrangement (Ikebana), etc. Finally, we would like to relativize Daisetz's thought through a comparison with Okakura Tenshin's The Book of Tea. 鈴木大拙の『禅と日本文化 (Zen and Japanese Culture)』(1959)は、英語で書かれた日本文化論のなかでも最も広く読まれてきた著作のひとつと言える。本講義では、その『禅と日本文化』を主に扱い、日本文化、特に日本の茶文化について学んでいく。それとともに、日本文化を外国の人々に発信する際のヒントを得る。具体的には、まず、第1章「禅とは何か」、第2章「日本の芸術文化」を読み、そもそも禅とは何か、また禅が日本の芸術に対して与えた影響関係を跡付ける。次に、第8・9章の「禅と茶道」、第10章「利休と茶人たち」を読み、「茶の湯」について考える。その際、「茶の湯」は総合芸術なので、日本のやきもの、建築、庭、いけばな等についても考えることになるだろう。そして最後に、岡倉天心の『茶の本』との比較を通じて、大拙の考えを相対化する。	
	(B) 専門科目 (1) 基幹科目 選択必修①	文化人類学	本授業では、文化人類学の考え方の修得を通じて、「世界をわかりなおす」ための知識や態度を身につける。たとえば現代は、地球温暖化やエネルギー資源の枯渇などの問題が表面化し、地球環境の持続可能な利用が求められている。そのときに、わたしたちが前提としている「自然」あるいはそこで解決策とされる「技術」とは何を指すのだろうか。文化人類学は、その問いをヒト・モノ・コトの関わり合いから考える。それを通じて、これまでのわたしたちが信じている「あたりまえ」が唯一ではないことに気づくことが、21世紀のさまざまな問題解決の始まりとなる。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際共創学部国際共創学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科専攻科目 (B) 専門科目 (1) 基幹科目 選択必修①	宗教と社会	<p>本授業は、プロテスタンティズムと資本主義の勃興について、そして、中東紛争の本質と解決への糸口やアメリカ合衆国における宗教保守と同国の分断、さらには、わが国における仏教と儒教の関係や神仏習合の歴史などについて講義する。また到達目標としては、①日本人は「無宗教」と言われており、神道のような自然宗教は喜んで受け入れるが、キリスト教のような一神教には警戒感を示すというのが、ほとんどその内実であることをよく理解し、説明できるようになること、②キリスト教やイスラーム(イスラム教)などの伝統宗教が世界や社会のあり方に大きな影響を与えてきたことを明確に理解し、説明できるようになること、③さらに、我が国では、仏教、神道、並びに儒教が密接に融合し、独特の宗教文化を形成してきたことを正確に理解し、説明できるようになること、である。</p>	
	社会思想史	<p>本授業では、古代および中世から近代、さらには現代にいたるまでのヨーロッパ社会思想の流れを概観しながら、各時代の主要な思想や認識のあり方が現在にどのようなつながってくるのかをたどる。とりわけ哲学、宗教、政治、経済などの発生過程を検討することで、今日理解されている思想上の考え方や出来事を多角的に把握することを目指すとともに、当該概念が今後どのように展開していくのかについても探っていききたい。いわば社会思想史を学ぶとは、社会思想に関わる専門的な用語や概念を学修することと見なされ、今日当たり前だと見なされていることを「批判的に」検討する姿勢を学ぶことである。なお扱うテーマとしては「古代ギリシャの民主政と哲学思想」、「キリスト教の成立と展開」、「中世イタリアの人文主義思想」、「近代イングランドの社会契約思想」、「18世紀スコットランドの経済思想」、「近代民主主義の定着と困難」などである。</p>	
	社会心理学	<p>社会心理学は「社会的存在」としての人間の心理と行動について理解するための研究分野である。社会心理学における視点は、個人内過程、個人対他者、個人対集団、個人対社会といった様々なレベルがあり、またそこで扱われるテーマは極めて多岐にわたるが、一貫していることは人々の社会行動を支えている心理的メカニズムを、実証的研究法(実験や調査)を用いて客観的な視点で解明していこうとすることである。このような視点は学問的興味のみならず、人々が公正中立な立場で他者を理解し、偏見のない社会をつくりあげていくためにも欠かせない視点といえるだろう。授業のなかではこのような「社会心理学的な視点」やそれを具現化するための方法論(社会心理学的方法論)を理解し身につけてもらいたいと考えている。</p>	
	社会システム論	<p>私たちが暮らしているこの社会は、科学、教育、行政、メディア、芸術などの相対的に独立し固有の機能を持ったいくつかの領域が織りなすシステムとして捉えることができる。この授業では、このように社会を分化したサブシステムからなる総体として捉える試みについて概観したあと、そうした視座そのものがいかにして歴史的に登場してきたのかを、アメリカ社会学におけるパーソンズやマーソンの構造・機能分析を出発点として振り返っていく。特に1960年代以降、構造・機能分析が想定した社会秩序観に対して現象学的社会学・エスノメソドロジーの立場からなされた異議申し立てと、そうした批判を引き受けて展開されてきた社会システムの作動についての相互行為分析の蓄積について学ぶことで、科学、教育、行政、メディア、芸術などのフィールドにおいて展開される人々の実際の(会話を含めた)相互行為のあり方を分析する手法を身につけることを目指す。</p>	
	国際社会と人権	<p>本授業は、日本における人権の考え方、外国における人権の考え方、国際人権の考え方の違いや関係を理解した上で、グローバルな視点から人権保障を促進するために、自分たちができること、すべきことを考え、実践できる能力を養うことを目的とする。この授業では、日本における人権の考え方だけではなく、主に国際的影響力の強い米国の人権の考え方、そして、国際人権の考え方も含めて解説する。また、それぞれの違いだけでなく、個人情報保護等にみられるように共通化が進む分野にも注目して説明をする。そして、グローバルな視点で人権を捉え、現代の様々な人権課題を考えることを通じて、自分たちが人権の担い手であることの自覚を深めることができるようにする。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際共創学部国際共創学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科専攻科目 (B) 専門科目 (1) 基幹科目 選択必修①	ジェンダーと法	本授業は、ジェンダーと法との関係を理解した上で、ジェンダー平等を実現するにあたっての法的課題を認識し、その解決のために自分たちができること、すべきことを考え、実践できる能力を養うことを目的とする。この授業では、米国等の外国の議論も参照しながら、基本的人権の観点を中心に、様々な分野での性差別、妊娠中絶の権利を含む生殖に関わる権利、そして、それらにかかわる法制度等の解説することで、ジェンダーと法との関係の理解や法的課題の認識を促し、その課題解決に向けて考えていくようにする。	
	政治学	本授業は、ヨーロッパの著名な思想家の政治思想や、「ナショナリズム」「保守主義」「ポピュリズム」「立憲主義」などの今日の政治における重要な概念について取り上げ、特に政治を成り立たせている理念や思想に重点を置いて、毎回配布するレジュメをもとに講じていく。本授業では、政治についての基礎知識を修得し、政治社会（国、地域、国際社会）において市民としてアクティブにその生を送るためのサポートをする。	
	多文化コミュニケーション	グローバル化が進む昨今、人や情報が頻繁に往来するようになり、文化的背景の異なる諸個人が出会い、共生を目指していくことが不可欠となっている。異なる文化を有する諸個人が、その異なりゆえにうまくコミュニケーションがとれないという経験をするところがある。それは単なる手段（言語など）のために生じる困難だけでなく、その背景にある考え方や価値観にも影響を受けていると考えられる。本授業では、「文化」およびそれに密接に関係する「言語」「歴史」「社会」などの重要性を理解し、異なる文化的背景を持つ人びととコミュニケーションをとり、共生する方法について、ライフストーリーの読解やインタビューも活用して考察する。内容を具体的に理解していくために、講師の海外でのフィールドワークの実体験・事例も紹介する。授業を通じて、自己・自文化を見つめ直し、他者・他文化を深く理解する視点を身につける。	
	国際社会と日本文化	本授業では、国際社会との関わりの中で、日本文化がどのように形成されてきたのかについて、授業を行う。授業はオムニバス形式で実施し、前半においては日本文化の成熟期である江戸時代を中心とした主に近世・近代の文化に焦点を当て、水墨画や茶道具を中心とする焼き物などの芸術の特徴について説明するとともに、国際社会の思想や文化がその成立にどのような影響を与えたか授業を行う。後半においては、日本文化に大きな影響を与えた国々（主に中国）における各時代の文化の特徴を中心に、日本の文化・社会への影響について国際的な視点から授業を行う。さらに、第二次世界大戦以降、日本文化の変容と国際社会への影響という内容も視野に入れて授業を行う。 (オムニバス方式/全15回) (17 島村幸忠/9回) 江戸時代の日本では鎖国政策が取られていたが、それは完全に諸外国との国交を断絶したとことを意味しない。実際、江戸時代の文化の多くは諸外国からの影響のもとに育まれた。そして、そこで育まれた文化は近代以降の日本の文化の素地となるとともに、諸外国にも影響を与えてきた。島村が担当する講義では、その実相を漢詩文、水墨画、焼き物などの芸術を例に取り上げつつ、跡付ける。 (20 闊立/6回) 日本文化に大きな影響を与えた中国における各時代の文化の特徴を中心に、日本の文化・社会への影響についてヒト、モノ、情報などの側面から授業を行う。また、第二次世界大戦以降、日本文化の変容と国際社会への影響という内容も視野に入れて授業を行う。日本文化の受容、変容およびそれぞれの歴史背景の勉強を通じて、国際的な視野から日本文化をより深く理解することができる。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(国際共創学部国際共創学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科専攻科目 (B) 専門科目 (1) 基幹科目 選択必修①	世界経済史	大航海時代から今世紀初頭までの世界経済の歩みを、基礎的な歴史用語を軸に、政治や社会の動向にも目を配りながら紹介する。取り上げる主な内容は、大航海時代、17世紀のオランダの繁栄、産業革命、19世紀のアメリカやヨーロッパの工業化、18・19世紀のアジア、帝国主義、両大戦間期の世界、第二次世界大戦後の世界である。本授業は、教員が作成したプリントの内容に沿って、板書、関連する写真・動画の解説、質疑応答を交えながら進める。本授業を通して、①世界経済史上の基礎的な用語について説明できること、②複数の重要な出来事を互いに関連づけて説明できること、③世界経済の歩みについて得た知識を現在および将来の社会生活に役立てられるようにすること、を目標とする。	
	アジア経済論	現在のアジア経済を理解するためにはアジア全体を1つのまとまりとしてとらえることがわかりやすいと考えられる。そこで、本授業では産業革命以後の世界経済の推移を概観した後、アジア経済の特質についてさまざまな側面から解説する。具体的な項目としては、アジア経済はどのように論じられてきたか、地域貿易と経済統合の進展、改革開放と経済大国：中国の登場、グローバルな分業ネットワークと地域企業の発展、成長と資本フロー、相互依存関係の深まりと加速するヒトの流れ、中所得国化と成長パターンの転換、メガリージョン化する都市、アジア経済のもう1つのダイナミズム、人口ボーナスから人口オーナスへ、貧困から格差へ、後発性と多様性の中での環境問題、開発協力と相互依存、21世紀のアジアについて説明する。	
	日本経済論	現在の日本経済を理解するためには明治以降の産業構造の変遷を学修することがわかりやすい方法だと考えられる。そこで、本授業では産業革命以後の世界経済の推移を概観した後、明治以後の日本経済の歩みを時系列に沿って解説し、受講者が世界経済の中で日本経済の位置付けがられるかを理解することを目的とする。具体的な項目としては、殖産興業と松方財政、近代産業の発達①；軽工業、近代産業の発達①；重工業、日清・日露戦争と日本経済、第1次世界大戦と日本経済、1920年代、昭和恐慌、高橋財政、戦時経済、戦後経済改革、経済復興、高度経済成長、安定成長、平成不況について説明する。	
	グローバル企業論	本授業では、グローバル企業で働くこと、ダイバーシティ経営、組織論等、様々な視点から考察していく。今、グローバル人材として何が求められ、何が必要なのか、未来に向けて何をすべきかを考える力を養うとともに、課題の本質、グローバル企業の具体的な事象を通して、グローバルな視点での課題解決についての理解を深める。授業は主にオンラインで実施し、グループワークを盛り込みながら、対話による相互理解も図っていく。	
	アカウンティング	アカウンティング(会計)とは、組織や企業の経営成績や財政状態を把握するために必要な情報システムである。アカウンティング(会計)はビジネスにおける共通言語の役割を果たし、どのような組織・企業においても、対内的にも対外的にも必要な情報であり、その理解は事業運営や経営管理において不可欠なものである。本授業では、初学者を対象として、アカウンティング(会計)の意義や必要性について、説明責任と意思決定に役立つ情報という視点からまず講義を行う。それを踏まえた上で、会計原則の基礎、利害関係者、複式簿記の基礎、財務諸表の意味と役割、管理会計の基礎、財務諸表の基本的な分析手法について講義する。また、発展的な学修として、非営利組織の会計についても講義する。	
NGO・NPO論	阪神淡路大震災以降、NPO(非営利組織)という言葉が広く知られるようになった。しかし、NPOについては、NPOとボランティアを同じ意味に捉えていたり、NPOは儲けてはいけない、最近できた組織形態などの誤解も多い。しかし実際は、病院、私立学校、お寺などは、身近なNPOの代表例である。日本相撲協会、日本サッカー協会、日本高等学校野球連盟も実はNPOの一種である。一方国連では、NPOではなく、NGO(非政府組織)という言葉を用いる。どちらも社会的問題の解決を使命としている点では同じであるが、貧困、医療、人権、児童労働などの様々な社会問題を解決すべく国境を越えて活動するNPOに対し、政府から独立した組織であることを強調する意味でNGOという呼び名が使われている。本授業では、一見、遠い存在のようで実は身近にあるNPO・NGOについて、理解を深めていく。		

授 業 科 目 の 概 要			
(国際共創学部国際共創学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科専攻科目 (B) 専門科目 (1) 基幹科目 (2) 領域科目	選択必修② グローバル文化領域	認知科学	認知科学は、情報処理の観点から人の知的メカニズムを探求する学際的な研究分野である。本授業では、視知覚、注意、記憶、顔の認知、身体化認知などのトピックを概観し、認知心理学や認知神経科学の手法についても紹介する。授業計画としては、各授業回において小テーマを設定し、各テーマに関する様々な実験結果とその考察を紹介する。本講義を通して、認知科学の基本的な知識の修得ならびに論理的思考の素地の形成を目指す。
		クリエイティブシンキング	本授業は、創造性と発想力に関する実践的理解を育むことを目指す。授業の基礎なる方法論として、社会課題の解決や企業の新規事業開発の手段として注目されているデザイン思考に着目する。そして、デザイン思考の背景にあるデザイン実践や創造性（クリエイティビティ）研究の歴史の変遷を事例を通して振り返ったうえで、ポストデザイン思考の展望に関して議論する。更に、授業の一部はグループワークとして実施する。身の回りにあるものを「デザインの道具」として創意工夫しながら活用し、設定した課題に対する解決策の提案、プレゼンテーションを行ってもらう。最終的には、具体的な課題に対して、創造的かつ共創的に解決策の提案を行うデザイン実践ができるようになる。
		リーダーシップ論	働き方が多様化した現代の企業経営において、人のマネジメントはますます重要な意義を有するようになってきている。本授業では、「人のマネジメント」として人的資源管理を基本について、学問的・実践的な理解を深め、組織を活かし個人も生きるための知的・実践的スキルを身につけることで、将来経営者やリーダーおよびマネジャーを担う際に必要となる知識と実践的スキルを身につけることを目的とする。本授業では、講義及びグループワークなどのアクティブラーニングを通じて、①産業革命以降におけるリーダーシップに関する歴史的研究の流れを把握し、その上で、②リーダーシップの定義およびリーダーシップの類型、③リーダーシップにおける普遍的な要件と社会および経済環境の変化によるリーダーのあり方を考察し、また、④マネジメントとリーダーシップの違いを理解するとともに、将来のリーダーとして、どのように自分を育成していくかを理解する。
	グローバル文化領域	キャリア開発論	本授業では、近年の社会環境や産業構造が変化し、個人の働き方が多様化している中で、企業の雇用システムも変化しており、それらが個人のキャリア形成にどのように影響しているのかを考察する。企業経営や組織の運営においては、様々な設備導入やIT技術による経営革新があるとはいえ、近年は社員のキャリア開発が重要な経営課題になっていることから、企業におけるキャリア開発の変化についても学ぶ。「社会で活躍できる人材」をテーマに、キャリア開発を社会の構造、組織、文化、雇用システムとの関連においてとらえ、キャリア開発の現状や課題を通して、キャリア開発の理論的な枠組みを学び、企業におけるキャリア開発の手法や仕組みを知る。キャリア開発に関する理論と共に、個々の企業・組織にとってのキャリア開発の在り方を学ぶ。
		多文化共生論	本授業では多文化共生論の一つとして、文化人類学の思考法を軸に、今ある「あたりまえ」ととらえなおし、来たるべき共生の社会を模索・実現するための知識と態度を身につける。人類の諸社会には、様々な異なる生活スタイル、考え方、世界観、文化が広がっている。では、私たちはそうした中で「共生」を、どのように考えれば良いのだろうか。文化人類学の思考には、多文化共生の模索に向けて有用な知見がある。そのような様々なトピックについて、身近な例から世界各地の馴染みのない生活や文化の例まで広く見て、それらに具体的にアプローチする。また、様々な例を理解し、考察するための理論や概念を学修する。
		共生社会論	「地域共生社会」とは、厚生労働省は「制度・分野ごとの『縦割り』や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が『我が事』として参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて『丸ごと』つながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会」と定義している。本授業では、その実現のために何ができるか、その課題を捉え、自分そしてグループで調べ議論し発表する。また、多様な考え・知識を深め解決策を検討することを学ぶ。授業を通して、共生社会の実現に向けたトピックを調べグループで議論することで課題を把握し、解決策を検討・模索する力を身につける。

授 業 科 目 の 概 要			
(国際共創学部国際共創学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科専攻科目 (B) 専門科目 (2) 領域科目 グローバル文化領域	平和と紛争	平和とは単に武力をともなう「直接的暴力」が無いことだけを意味するのではなく、環境破壊、人権侵害や貧困といった、人が本来持つ侵されざる権利を侵害する「構造的暴力」の無いことも意味する。しかし構造的暴力は、直接的暴力を生むことがあり、その逆もまたあり得る。本授業は、こうした平和と紛争に関する諸概念、並びに、課題読書等の内容に対するより良い理解の助けとなる講義を提供する。これらによって本授業は、様々な形態の紛争や暴力を生む多様な要因、さらには持続可能な平和構築のための方策について理解を深める。	
	アジア文化論	本授業では、「自然との関わり」に焦点を当てながら、アジア文化の歴史と現状について学ぶ。アジア各地の文化は、稲作や畑作などの農耕、遊牧を含む牧畜、漁撈や狩猟採集など様々な生業の影響を受けながら形成されてきた。そのような生業に注目しながら、慣習や民間信仰などの具体的事例をとりあげ、各地の文化の特徴を比較論的に学ぶ。さらに、近代化による自然と人間の関わりの変化、それによって生じた新たなリスクと社会の関係について、震災と地域文化の関係についての具体的事例や「レジリエンス」という考え方などに注目しながら考察する。	
	文化政策	本授業では、文化政策について、伝統文化の保護、地域おこし、国際文化交流、言語政策などのテーマを設定し、基礎知識を講義形式で紹介する。テーマごとに受講生はグループ・ディスカッションを行い、議論を全体共有する。受講生が短期留学で関心を深めた国・地域の政策との比較検討も行う。本授業を通して、①文化政策について、国・自治体・地域の各政策・取組についての理解を深める。②受講生が近い将来直面することが予想される多文化社会について、海外の事例を参考に課題と政策について考える力を身につける。	
	生活文化論	日本の食文化や衣食住に対する価値観は、近隣の東アジア諸国、並びに西洋諸国からの外来文化を常に受容し変化してきた。本授業では、日本人の生活文化が外来文化との接触を通して、どのような変遷を経てきたかについてふれ、海外との生活文化の違い・奥深さを身近な衣食住の例を挙げながら、異文化理解の観点から学ぶ。また、食文化や衣食住の国による違い等を実例を挙げながら解説する。	
	現代文化論	本授業では、現代文化を表す「都市」「消費」「情報」を軸に、各テーマについて基本的知識を講義形式で紹介する。具体的事例として、受講生の関心が高いポップカルチャー、スポーツイベント等を取りあげる。受講生はコメントシートで意見をまとめ、担当者はテーマごとにフィードバックを行う。グローバル文化とローカル文化のせめぎ合いについて、受講生は身近な事例を探し自身の考えをレポートにまとめる。本授業を通して、①現代文化を「都市」「消費」「情報」という視点から特質について理解する、②現代文化が我々の生活・考え方に及ぼす影響と社会的役割について考察する。	
	地域研究A	本授業では、英語で書かれた文章を学ぶなかで英語圏の文化への理解を深め、英語が使われている国・地域の社会・歴史について理解する。具体的には、主として、講義形式により、テーマについての主要な解説を行い、文学作品における英語表現や、扱われた内容から見る多様な文化、並びに英語で書かれた代表的な文章を学ぶ。また、社会や世界との関わりの中で、他者とのコミュニケーションを行う力を育成する観点から、外国語やその背景にある文化の多様性及び異文化コミュニケーションの現状と課題について学ぶ。あわせて、英語が使われている国や地域の文化を通じて、英語による表現力への理解を深める。	
	地域研究B	本授業では、文化の接触や交流、それを通じた社会の変容などに注目することによって、アジアという地域を包括的に理解することを試みる。さらに、それを踏まえて現代アジア世界の平和的な共存にとって、どのような課題や可能性があるかを考える。具体的には、前半の講義で「翻訳」という営みに注目して文化的影響関係を理解することで、アジアにおける歴史的な文化交流がいかにアジア地域の緊密な関係を形成しているか理解するとともに、近代化に伴うアジアと西洋文化との接触の様態についても学ぶ。さらに、後半の講義では、社会主義国家の建設と宗教的ネットワークの展開という二つの歴史的現象の考察を通して、現代のアジア地域が抱える諸問題についての理解を深める。	

授 業 科 目 の 概 要				
(国際共創学部国際共創学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
学科専攻科目 (B) 専門科目 (2) 領域科目 国際社会領域	グローバル文化領域	地域研究C	<p>アフリカは、日本とは地理的に遠く離れているように思えるが、我々の日常生活のさまざまなところにアフリカ地域との接続点がある。各種メディアで報道される貧困というイメージで認識されることも少なくないが、本授業では、アフリカ地域における生態資源や鉱物資源の豊富さ、あるいは、言語や民族の多様性、また、これらの背景にある政治や歴史について学ぶ。さらに、本授業を通して、自分が暮らす地域と異なる地域について学ぶことの面白さについて、地域研究や文化人類学の知見を活用しながら修得する。</p>	
		福祉社会論	<p>本授業では、福祉とは何か、人間と福祉、教育と福祉、人権と福祉、生活と福祉、自立と福祉、余暇と福祉、福祉の支援者、環境と福祉、地域連携と福祉、外国の社会福祉の歩み、福祉社会の未来、等をテーマに、毎回ひとつのトピックについての講義を行ったうえで、振り返りペーパーを通じて理解を深める。最終的に、現代の福祉社会問題の中から関心のあるテーマを選択して学期末レポートを執筆する。本授業を通して、①社会福祉の概念を理解し、福祉的な社会とは何かを理解でき、②日本の自助・互助・共助・公助の考え方を知り、福祉社会の課題について解決策を検討・模索する力を身につける。</p>	
		メディアと社会	<p>本授業では、SNSで個人が発信できるようになった時代に、新聞やテレビなどマスメディアの果たす役割を学生とともに考え、メディアの社会への影響力、読解力などについても考えを深めたい。本授業では、対話を重視した授業形態を取り、歴史認識や文章の読み込む力を高めることでメディアリテラシーも身につけることを目標とする。最後は学生がテーマを決め、発表してもらおうかたちを取りたい。</p>	
		国際関係論	<p>国際関係論は、国家のみならず、市民社会や企業、テロリスト集団までを含む、国以外存在によっても織りなされている国際社会の様々な現象を理解しようとするものである。国内社会とは大きく異なり、国際社会には、強制力のある統一的な権力は存在せず、国家は自らの責任で安全を確保していく必要がある（基本的には「自助」の世界）。しかし、だからと言って、世界は弱肉強食の単なる無法な状態に陥っているというわけではなく、国家は守るべき規範とルールを相互に確認しあい、協力しなければならない部分は協力するという、ある種の秩序を形成している。環境、エネルギー、食糧、格差や貧困、新興・再興感染症など、国際社会が実に広範な問題に直面している中で、企業や市民社会といった国家以外の存在も、日々の暮らしや、守るべき価値を形成している。本授業は、このような現代の国際関係における様々な要素を、体系的、複眼的に理解するために重要な用語や概念について講じる。</p>	
		国際社会と外交	<p>ロシアによるウクライナ侵攻が日本の物価高をもたらす等、経済のグローバル化やIT技術の進化により、国際社会の動向は、我々一人一人の生活に直接の影響を与えるようになってきている。国際社会の動向を読み解き理解することは、21世紀を生きていく上での必要不可欠な能力である。本授業では、前半と後半に分け、まず前半部分において、国際社会を理論的に説明しようとする国際政治学の基本的な概念を学修する（例えば、「リアリズム」と「リベラリズム」、外交政策決定論等）。後半部分では、日中関係、日米関係、米中関係等のいくつかの具体的な例を題材に、過去に実際に起きた具体的事象が、政治学の理論によってどのように説明できるかについて学修する。</p>	
		国際開発論	<p>本授業では「開発」に重きを置き、「（国際＝国をまたいだ）価値を創造すること」を中心に取り扱い、どのような価値を創造すべきか（What to make?）とその実現の考え方（How to make?）を検討し、実践するための考え方の枠組み修得を目標とする。そのために、①価値創出の対象である世界の状況（人口動向・高齢化、都市化、経済構造の動向など）を俯瞰的に見る視点を検討し、②その中における日本の位置づけについて考える。続いて③価値を創造するための事業のマネジメント（プロジェクト・プログラムマネジメントの考え方を含む）について、事例と理論を織り混ぜながら提示するとともに、その過程を通じて特に、「国をまたぐ」ことによる留意点とそれ故に創出される価値について検討する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際共創学部国際共創学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科専攻科目 (B) 専門科目 (2) 領域科目 国際社会領域	国際保健論	本授業では、健康水準や保健医療の発達程度の比較分析に用いられる定量的方法の実際を学び、世界の各地域における国際保健上の課題を様々なトピックにより学修する。トピックには、健康関連のMDGs（母子保健、HIV/エイズ、結核、マラリア）、難民問題、紛争問題などを含む。また本科目では、ディスカッションや地域フィールドワークを積極的に取り入れ、授業への主体的な参加を促しながら進める。本授業を通して、文化、宗教、政治、経済、気候、地理的条件等が健康水準や保健医療に与える影響を理解することができ、国際共生社会に向けて、それらの改善のためのプランを自分で考えることができるようになる。	
	国際社会と教育	近年、「親ガチャ」という言葉に代表されるように、生まれや家庭環境によって人生が左右されうことは多くの人が認識するところとなった。日本国内でもそうであるように、世界には様々な境遇のもとで生まれ育つ人びとがあり、生まれによる教育格差の存在が周知の事実となっている。教育社会学の分野では、家庭の経済力や両親の学歴などの資本が、子どもの学力やその後の人生にも強い影響を与える傾向があるという指摘は古くからなされてきた。しかし、そもそも公教育制度は身分や生まれによって将来が定まってしまう社会を打破しようと設計されたものである。それなのに、なぜ学校制度を経由してもなお、生まれの影響が強く残るのだろうか。その実態はどのようなものだろうか。また、これを解決する手立てはあるのだろうか。本授業では、日本だけでなくアフリカやアジアを含む世界の教育制度と格差の現状について学びながら、どのような要因が教育格差を生成しているのか、そしてそれを解決する手立てはあるのか、教育社会学や比較教育学などの知見を活用して検討する。	
	国際協力論	本授業では「国をまたいだ人や組織の協力」の部分を中心として取り扱う。講義の構成は大きく①ODAなど狭義の「国際協力」と、②広義の「国際協力」の部分に分かれる。①狭義の「国際協力」においては、日本のODAの歴史的な背景と経緯及び仕組み、日本や世界のODAの現状、ODAに限定されないこれからの開発協力のあり方を検討する。これを踏まえて②広義の「国際協力」では、「支援と協力」の考え方の違い、「国をまたぐ」ことによる協力の困難と可能性、人々や組織間の協力ならではの価値創造、などを検討する。これらを通じて、受講者が「協力」の観点より「国際共創」を考える枠組みを獲得することを目的とする。	
	環境と社会	本授業では、環境の保全や改変、持続可能性をめぐる社会の仕組みやガバナンスのあり方について理解を深めることを目標とする。環境と持続可能性のガバナンスは、空間的にも政策的にも、グローバル、リージョナル、ナショナル、ローカルといくつもの層が関係しながら展開している。そして、それぞれの層でガバナンスを担う多様な主体が存在する。国際機関、国の政府、地方自治体、各層で活動する企業、NGO・NPO、市民などである。こういった利害関係に関わる主体のことをステークホルダーという。本講義では、環境と持続可能性にかかわる社会課題とそのステークホルダーについて整理した後、問題のメカニズムを理解するために必要なコモンズ、社会的ジレンマ、資源ネクサス等の理論を、事例を通して理解する。また、ボードゲーム等のゲーム教材を活用し、複数の事象の関係を理解しながら将来の意思決定を行うプロセスを体験する機会を提供する。	
政策デザイン領域	公共政策	公共政策は「問題発見」「課題解決」の学問といわれる。政治学や行政学だけではなく、法学・経済学・経営学・社会学や、教育、医療、外交、防衛、保健といった各分野の知見を総動員する学際融合的な学問である。いいかえれば「何が公共政策学の核心なのか」が見えにくいかもしれない。本授業では、①なにが社会問題になるのか、②その問題はだれがどのように解決するのかの2つのテーマを柱とし、講義形式とワークショップ形式の組み合わせで実施する。公共政策学の基本的な概念や理論的系譜を追いつつ、現実の社会問題・政策問題がどのように設定され、どのように解決されているのか、そして公共政策学がそれらをどのように理解してきたのか、講義形式で提供する。ガバナンス論やデータ分析、EBPMといった公共政策をとりまく近年の潮流についても言及する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際共創学部国際共創学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科専攻科目 (B) 専門科目 (2) 領域科目 政策デザイン領域	環境政策	本授業では、アクティブ・ラーニングを取り入れ、環境政策についての理解を深めるとともに、社会課題としての環境問題に対する政策学アプローチを学ぶ。水俣病やレイチェル・カーソンについての研究を踏まえ、具体的な環境問題の事例について、学生は自分ごととして理解し、自分の考えを形づくっていく。また、今日の国内外の行政や企業、NGO・NPOの実践について学ぶことで、環境問題への多様なアプローチを学ぶ。	
	まちづくり論	経済社会の成熟化が進み、少子高齢化、グローバル化、財政の逼迫化、価値観の変化・多様化など地域を巡る環境は大きく変容している。こうした中、各地域では、地域の個性や魅力を活かした地域の選択と責任を重視した主体的なまちづくりが求められている。本授業では、こうした環境変化のもとで求められるまちづくりの方向性について概観した上で、地域全体をどのように変革していくのか、自治体、企業、地域のコミュニティなどの多様な組織が抱える問題やその解決方法について海外事例も交えながらこれからのまちづくりについて検討する。	
	都市デザイン論	本授業では、世界的に見ても希有な人口減少・超高齢化時代に入った日本において、私たちはどのような暮らしをすべきなのか。都市計画や地域づくり・まちづくりの視点から私たちの暮らしのあり方を考える。具体的には、都市や「まち」の生成の仕組みや、様々な形態・理念を学ぶとともに、持続可能性の探究など近未来の方向性を概観する。さらに、地域診断法やコミュニティ・ビジネスなど都市や地域をデザインするための手法と、先駆的な地域再生、地域活性化事例からその要点を学び、私たち自身の暮らしのデザインへのヒントを得る。	
	環境デザイン論	本授業では、社会の仕組みづくりとも連携した広い意味での環境デザインのあり方について、理解を深めることを目標とする。そのために、物的な環境、社会の仕組み、人間の行動のつながりと、そのつながりをデザインするための基礎的な考え方を身につけ、実践のための足がかりとなる授業を提供する。なかでも、過去との比較、未来の想像、仮想空間と現実の往来の3点に注目した授業を通して、現在の学生が置かれた環境を相対化できるようになることを重視する。授業は事例紹介にとどまらず、事例に基づいた議論を通して理解を深める。また、学生自身が環境のデザインパターンを探求することを通して、環境デザインの進め方を自分のものとすることを、授業の着地点とする。	
	アートマネジメント	国が平成29年に改正した「文化芸術基本法」では、文化芸術が有する本質的価値だけでなく、観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業などの社会的・経済的価値への波及が期待されている。本授業では、このような「文化芸術創造都市政策」について、国内外の動向や事例、文化芸術を活用した産業・観光政策や社会的包摂・社会的処方等への具体的な取り組み、行政や文化拠点、文化団体等の役割等を学ぶことで、これからのVUCAの時代に求められるアートマネジメントの基礎知識を身につける。	
	地方創生論	日本では、21世紀に入り急激な少子高齢化が進み、面積では国土の大半を占める周辺地域で、人口減少や産業の衰退がみられる。その結果、市町村・地区・コミュニティの各地域において、地域の枠組みの次世代までの継続が不可能になり、地域の持続性を保つことが困難となりつつある。この現状に対する政策として、内閣府による地方創生という地域活性化事業がある。本授業では、地方創生のはじまりや語源、地方創生が必要とされる時代背景、どのような地方創生の取り組みがなされているのかを、実態分析や事例を中心に説明する。分析とする視点は、地域経済・地方財政であり、地域経済の衰退や地方財政が抱える課題に対して、地域経済を成長させ、地方財政を好転させた地方創生の取り組みの成功事例をみていく。	
	中小企業政策	中小企業の活性化は、多くの国で重要な政策課題のひとつとして認識されている。一方、現代日本では正当な評価を中小企業が受けていない現実がある。戦後日本の経済成長を支えてきた中小企業の存在と地域経済の基盤としての両面から中小企業を再評価する必要がある。それらを踏まえて、本授業では、中小企業の存立を軸に、日本の中小企業政策の意義を明らかにした上で、日本における中小企業政策の現状、課題、今後の展開について説明するとともに、中小企業の展開をケーススタディし、これからの中小企業政策はどうあるべきかについて講義する。	

授 業 科 目 の 概 要				
(国際共創学部国際共創学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
学 科 専 攻 科 目 (B) 専門科目 (2) 領域科目	政策デザイン領域	ローカルガバナンス論	<p>本授業では、地域社会における問題解決の仕組みに焦点を当てる。この「地域社会」は、都道府県や市区町村といった自治体と同じ規模を指示する意味と、そうでない意味もある。実際、地域の抱える諸問題を解決する主体は議会や行政によって構成される「地方政府」だけではない。民間企業やNPO、住民もまたその担い手になりうる。こうした多様な主体の登場による課題解決に期待を込めて「ローカルガバナンス」の言葉が広く用いられるようになった。もう一方で我々が再度検討すべきは、その課題解決の場における地方政府、すなわち「ローカルガバメント」の存在意義である。もはや用無しなのか、それとも必要なのか。</p> <p>本授業ではまず、「分権」「自治」「コミュニティ」「公共性」「多元主義」「参加」「協働」といった行政学・地方自治論の概念を整理することで、ローカルガバナンスの基本的な考え方を整理する。そのうえで、ローカルガバナンスを構成する主体である自治体、住民、民間企業、ボランティア・NPOセクターの役割や責任について検討する。</p>	
		パブリックマネジメント	<p>本授業では、自治体を主な対象として、公共的課題を解決するために、公的部門をいかにマネジメントしていくかを中心的テーマとする。分権化・財政状況の悪化など環境が大きく変化する中で、国からの上意下達式に運営が行われてきた行政管理から、自ら考え主体的に地域運営を行うパブリックマネジメント(行政経営)へと自治体の思考・行動が変化してきた。本授業では、自治体の役割や構造、地方分権改革とその影響について学修し、その後、1990年代後半からわが国の自治体経営に大きな影響を与えたニュー・パブリックマネジメント(NPM)について、その理念や具体的な手法について授業を行う。その上で、NPMの経済性や効率性を求める手法の課題や現状、近年重要性が増している他の組織や地域、民間企業との協働などについても授業を行う。</p>	
		社会ネットワーク論	<p>本授業は、都市社会学における「社会ネットワーク論」の理論的な系譜を追いながら、「コミュニティ論」との対比のなかで、都市空間の人間関係について論じていく。1970年代までの社会学は、社会集団内の地位-役割関係に注目し、集団の構造と規範を捉えることによって、人々の意識と行動を分析することを特に重要視してきた。本授業では、これらのパラダイムからの脱却の過程を、時系列に捉えていく。また、パーソナルネットワーク研究は、家族関係、社会階層、職業地位達成、高齢者問題などの社会問題分析との接合を容易にした。これらの諸問題を社会ネットワークの関係の中から議論する。また、最新の社会ネットワーク分析の事例を取り上げながら、ソーシャル・メディアなどのツールを使ったSNSによるコミュニケーションがあふれる現代社会について、アクティブラーニングの手法を用いながら、人間関係の変化を論じる。</p>	
		ボランティア論	<p>多様な社会的課題に対し、国内外のコミュニティで多様なボランティア活動が実践されている。本授業では、日本社会で「ボランティア元年」と言われた平成7年を起点に、ボランティアの歴史的展開を概観するとともに、ボランティア活動の成果と課題に理論、実践の両面からアプローチする。その際、政府/市場/市民社会との関係に留意しながら考察を進める。将来のキャリアデザインを豊かにするため、主に大学生のボランティア活動を手がかりに、NGO・NPOなど実践主体の手法を学び、基本的な発想とスキルの修得を目指す。本科目は、アクティブラーニングの視点を取り入れ、グループワークを通じた対話的な学びを重視する。</p>	
		ソーシャルキャピタル論	<p>ソーシャルキャピタル(社会関係資本)は、2006年頃から、経済学、経営学、医学、(国際)政治学等の様々な分野で、着目されるようになった概念である。ソーシャルキャピタルは、東日本大震災でよく耳にした「絆」に近い概念であるが、これが豊かであるのと乏しいのでは、私生活だけでなく、社会経済活動、国家間の問題などに、大きな違いを生む事例が多くあり、学術分野を越えて、様々な研究者によって、ソーシャルキャピタル醸成(育むこと)の重要性が指摘されている。本授業では、経済学・経営学の視点から、ソーシャルキャピタルに関わる様々な事象に焦点を当て、私たちの日々の生活やライフステージから、国際関係に至るまで、様々な角度から、ソーシャルキャピタルが果たしている役割、およびその醸成効果について理解を深めることを目標とする。</p>	
		社会創造領域		

授 業 科 目 の 概 要			
(国際共創学部国際共創学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科専攻科目 (B) 専門科目 (2) 領域科目 社会創造領域	地域イノベーション	<p>本授業では、地域イノベーションを果たす具体的な方策について考察する。昨今、ヒトやモノ、ストーリーなどの資源を効果的に組み合わせるイノベーションを実現し、地域の課題解決につながっている取り組みが各地で見られるようになった。しかし、漫然と推し進めてうまく事が運ぶわけではない。そこで、本授業では、地域資源、プラットフォーム、ネットワーク、信頼などの概念をキーワードとして、各地の地域づくりを題材としたケースメソッドを取り入れ、多様な主体間の協働をもたらす、新しい価値や活動をうみだすための実践知の創造を目指す。授業のすすめ方としては、まず、地域イノベーションに関する理論やキーワードについて学ぶ。その上で、地域づくりのケースメソッドによって、学んだ知や概念を実践、応用する技能を育むように心がける。そして、これらの知や概念をさらに体得できるような好循環を構築する。</p>	
	地域産業論	<p>地域によって産業構造(構成)は異なる。なぜ、特定の産業が、一定の都市・地域に集積するのか、地域ごとに、どのような産業立地の特色をもつのか、その結果、なぜ地域格差が生じるのかについて分析をおこなう。また、生じた地域格差を是正する中央・地方政府の役割についても学ぶ。そのために、本授業では、農業・商業・工業などの立地が、どのような要因によって決まるのかを分析する産業立地論を学び、地域ごとの産業立地の特徴や要因を概観する。また、格差是正を主たる目的とする政策として、国土政策・グランドデザインなどの中央政府の政策や、地方自治体による諸政策についても紹介する。</p>	
	情報産業論	<p>本授業では、ICT技術とシステム形態(ホストコンピュータ、クライアントサーバーシステム、クラウドコンピューティング)の変遷による情報産業発展の歴史、フェーズ毎で変わるリーダ企業の戦略を概説する。また、多くの産業においてDX(デジタルトランスフォーメーション)が経営課題となりSoRからSoEへ投資がシフトする中、重視される情報産業とユーザ企業との共創、IT/DXが主力領域となったコンサルティング業など他産業との関係、AI/IoT/Cloudなど新たな技術とビジネスモデルについてケーススタディを交え学ぶ。次に、イノベーションの手法を使い、新たなビジネスモデルまたは社会課題解決のアイデア創出に関するグループワークを実施し、構想力、独創性の養成を狙う。その後、日本のDXにおける課題(2025年の崖など)、情報産業の方向性、現代的トピックスについて説明する。</p>	
	観光産業論	<p>本授業では、観光産業に関する基礎的な知識の修得と成果を上げるためのマネジメント手法の理解を目標に対面の講義方式で行う。まず、観光産業の定義や意義、観光産業と観光事業の関係、観光産業の特徴など、観光産業の基礎的な事項についての理解を深め、需要を創造しホスピタリティを高めるためのマーケティング・マネジメントについて学ぶ。次に、主要な観光産業である旅行業、宿泊業、運輸業(航空事業・鉄道事業)、テーマパーク事業、水族館・動物園、MICEとIR、空港経営について、各事業の概要や関連法規、歴史や現状について学ぶと共に、具体的な事例を基にマネジメントに必要な基本的な理論を理解し、理論を実務において応用する力を養う。</p>	
	ツーリズム論	<p>本授業では、ツーリズムに関する基礎的な知識を修得するとともに、ツーリズムとまちづくりの具体的な事例を通じて地域活性化に繋がるツーリズムのあり方について考察することを目標とする。授業は対面の講義方式で行う。ツーリズムの基礎として、ツーリズムの定義や意義、対象などの概要や歴史、マストツーリズムとニューツーリズム、観光立国とインバウンド・ツーリズム、持続可能な観光とオーバーツーリズムについて学んだ後、イベント、アート、文化施設や産業遺産を活用したツーリズムによる地域価値創造をはじめ、ダーク・ツーリズム、コンテンツ・ツーリズム、フード・ツーリズム、グリーン・ツーリズム、世界遺産登録、地域間連携による観光振興などの事例を通じて、ツーリズムと地域活性化について考察する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要					
(国際共創学部国際共創学科)					
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
(B) 専門科目	(2) 領域科目	社会創造領域	事業創造論	本授業は、新規事業の創造に関する基本的な理論を、大企業の事業開発、中小企業の経営革新、ファミリービジネス、ベンチャービジネスに分け、経営資源の特性や、事業創造の主体による事業創造手法の違いについて知ることで、アイデアの創出や起業プロセス、起業後の取り組みなどへの理解を深めることをめざす。講義形式での基礎的な知識修得に加え、複数回のケーススタディを行うことで、自分ならどうするかの見点を持ち、考える機会を設ける。本講義の到達目標として、次の3点を目指す。①事業創造における、アイデア創出の方法について理解する。②事業創造におけるステークホルダーを知る。③起業時の環境分析から計画立案までのプロセスを知る。	
			社会的企業論	私たちを取り巻く社会環境が多様化するにつれ、社会問題も多様化している。その多様化した社会問題を解決する主体のひとつとして注目されているのが社会的企業(ソーシャルエンタープライズ)である。社会的企業には非営利組織(NPO)の形態をとるものもあれば、営利組織の形態をとるものもある。特にNPOの形態をとる場合、事業収入を活動費用の主としている点で、寄付金や助成金に依存するNPOとは、戦略上の組織経営手法が異なる。特筆すべきは、新聞に散見されるように、世界の様々な問題を解決して、自分が社会の役に立っていると実感したいと思う若者たちが増え、ソーシャルエンタープライズを起業する若者が増えている点である。本授業では、このような潮流を鑑み、社会問題の解決をビジネスとして取り組む社会企業に関する様々なトピックスについて理解を深めるだけでなく、社会企業家を招へいし、具体的な起業方法の探求も企図している。	
学科専攻科目	(C) 発展科目	(1) 共創科目	グローバル・リサーチA	本授業は、米国の西海岸エリア(シリコンバレー、ポートランド)で取り組まれているイノベティブなエコシステムに着目し、受講生の興味・関心によりテーマ別のグループ分けを行い、エコシステムの基礎的な知識修得、資料収集、フィールド調査、報告会といった実証的な授業を実施する。また、現地で活躍している日本人研究者やビジネスパーソンたちによるセミナーや座談会、大学や企業訪問などを通してシリコンバレーのバイオ産業、研究やビジネス環境に触れるとともに、全米で住みたい街No.1にも選出されたオレゴン州ポートランドでの持続可能なまちづくりを学び、両地域に存在するイノベティブなエコシステムを学ぶ機会とする。	講義 8時間 実習 43.5時間
			グローバル・リサーチB	本授業は、多くの日本企業が進出するなど、日本と関係が深いタイを対象とし、実習はタイで実施する。日本とは異なる社会や文化を有するタイにおいて、現地の人々との交流を通じて多文化に対する理解を深めるとともに、現地の日本企業への訪問や現地で働く日本人とも交流し、多文化社会においてどのように活動することが重要か、現地の人々とのように協力していくことが重要か、について理解を深めていく。本授業は、現地の大学である泰日工業大学との連携協定に基づく連携活動の一環として実施される。泰日工業大学は、泰日技術振興協会を設立母体とする大学であり、日本のものづくりに対する発想を基礎として、タイにおけるものづくり人材育成とタイ日共創プラットフォームの構築を目的とした大学である。現地で実施される内容については、泰日工業大学が提供するプログラムに沿って実施していく。	講義 8時間 実習 41時間
			ローカル・リサーチA	本授業では、フィールドワークを通じて、島根県の地域企業や社会的事業に関わる人々や、現地の大学生との関係を構築しながら、地域の現状や課題を自分の目で見て理解し、人々と交流しながら地域課題の解決手法を検討し、共感力と実践力を身につけていくことを目的としている。また行政だけでなく、民間企業や団体とともに活動を行うことで、さまざまな視点から島根県の現状と課題について理解し、解決策について検討していく。具体的なプログラム内容としては、事前学修を受けた上で、フィールドワークとして、島根県庁等への訪問、地域企業や社会的企業への訪問とワークショップ、島根県の大学生との交流等を行う。それらを踏まえた上で、グループ単位で課題解決策の検討を進め、最終的に成果発表会で課題解決策の提案を行う。また、フィールドワーク終了後に事後学修を行い、フィールドワークを総括する。	講義 15時間 実習 44時間

授 業 科 目 の 概 要			
(国際共創学部国際共創学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科専攻科目 (C) 発展科目 (1) 共創科目	ローカル・リサーチB	<p>本授業では、フィールドワークを通じて、高知県の自治体、企業、現地の高校生との関係を構築しながら地域の現状を知り、課題に気づき、解決方法を検討し、学生が当事者として自分の暮らす地域の課題として共感し、考察し、実践できるよう繋げることを目的としている。行政や民間企業、団体とともに活動を行うことで、様々な視点から高知県の現状と課題について理解をし、解決策について検討をしていく。具体的なプログラム内容としては、高知県庁等への訪問、企業訪問やワークショップ、高校生との交流を通して、高知県の現状と課題について学び、グループ単位で課題解決策の検討を進め、成果発表会で課題解決策の提案を行う。また、高知県に対し観光客目線での防災課題とその解決に向けた提案も行う。フィールドワーク終了後は事後学修を行い、フィールドワークを総括する。</p>	講義 15時間 実習 44時間
	国際共創プログラム	<p>本授業は、日本(関西)と関係の深いベトナムを事例に、現地訪問を含むプログラムを実施する。国内での事前プログラムでは、グループ毎に課題を設定し事前学修とベトナムに関わる実務家、専門家より事前講義を受ける。現地訪問プログラムでは、ハノイにてJICA事務所やJICAの協力現場訪問、市内視察をおこなった後に、中部高原のラムドン省に移動し、日本を含むフードバリューチェーンを構成する現場を訪問し、合わせてダラット大学外国語学部(もしくはホーチミン市建築大学学生)との交流をおこなう。その後ホーチミン市に移動し、JETRO事務所訪問、ベトナム企業の現場訪問、市内視察をおこなう。これらを通じて、異文化の理解とそこでの協力のあり方、「新興国」の実際と日本との関係性の理解と、学生のキャリアイメージの多様化と深化を図る。これらを通じて日本とベトナム相互の持続的な社会経済関係について検討し、「国際共創」による価値創出の考え方の理解を深める。</p>	講義 16時間 実習 35時間
	グローバルビジネス・スタディ	<p>本授業では、International企業(海外進出)、Multinational企業(海外への権限移譲)、Global Integrated企業(地球で1つの会社として振る舞う)と進化するグローバル企業において、各フェーズでの戦略、情報システムを活用した経営資源のマネジメント、ガバナンス等について、ケーススタディを交え学ぶ。グローバルでビジネスを展開するIT企業からゲスト講師を招き、実際のビジネスを通して現行のグローバルビジネスを理解することを目標とする。先ず、グローバル企業が国境を越えて行う事業活動について理解するため、グローバル経営の戦略と組織、本社と海外子会社の関係、グローバル経営のための経営情報システム活用などグローバル経営における基本的な考え方を学修する。次に、ゲスト講師を招いたグローバルビジネスのケーススタディ、グループワーク、プレゼンテーションの実施によって、情報活用力、思考力、構想力向上を目指す。ゲスト / テーマは、以下を予定している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 外資系グローバルIT企業 / 戦略、日本オフィスの役割 2 日系グローバル製造業グループIT企業 / 海外オフショア拠点活用の勘所、親会社がグローバル企業であり自身のアジア展開について 3 外資系グローバルIT企業 / 外資系企業の日本市場への参入とビジネス拡大 4 ITベンチャー企業 / 海外拠点との共創によるベンチャー企業の創業とビジネス拡大 	
	ローカルビジネス・スタディ	<p>グローバル化の進展により、国内におけるビジネスにおいても、海外市場の動向や海外の競合企業の影響は避けがたい状況となっている。一方で、少子高齢化、地域の過疎化が進む中で、国内においてもこれまでどおりのビジネス手法では対応できない状況になりつつある。本授業では、このような環境下にある国内の企業や団体の経営者・職員などの実務家をゲスト講師として招き、絶え間なく変化しているローカルビジネスについて、実践的に学ぶことを目的としている。実践的な学びとするために、ゲスト講師が最新の業務事例の紹介を行うなどに加えて、グループワークやグループ報告を通じて、地域やローカルビジネスの課題等に対して、主体的に考え、議論を行い、意見をまとめて報告する授業形式で実施する。テーマは以下を予定している。</p> <p>テーマ1：地場産業型企業 テーマ2：地方創生型企業 テーマ3：海外展開型企業 テーマ4：産官連携型企業</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際共創学部国際共創学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科専攻科目 (C) 発展科目 (2) 英語アドバンスト科目	Reading and Writing A	本授業は、英語で書かれた文章を学ぶなかで英語による表現力への理解を深め、英語が使われている国・地域の文化について理解することを目的とする。授業の進め方は、テキストに沿ってテーマについての主要な解説を行い、試験やレポート等で受講生のテーマについての理解を確認する。また、ニュース記事における英語表現や、扱われた内容から見る多様な文化、並びに英語で書かれた代表的な文章を、グループワークを交えながら学ぶ。	
	Reading and Writing B	本授業は、英語で書かれた文章を学ぶなかで英語による表現力への理解を深め、英語が使われている国・地域の文化について理解することを目的とする。授業の進め方は、テキストに沿って、Reading and Writing Aで取り扱っていないテーマについての主要な解説を行い、試験やレポート等で受講生のテーマについての理解を確認する。また、ニュース記事における英語表現や、扱われた内容から見る多様な文化、並びに英語で書かれた代表的な文章を、グループワークを交えながら学ぶ。	
	Listening and Speaking A	本授業では、英語の4技能であるリスニングとスピーキング技能の修得に焦点をあて、総合的なコミュニケーション能力の向上を目指す。本授業を通して、受講生は正しい文法と語彙力を身につけ、自分の意見や考えを人に伝えることができることを到達目標とする。授業の進め方としては、テキストに沿ってリスニングとスピーキングの基礎的な練習をし、グループワークまたはペアワークを通してアウトプットの実践を行う。	
	Listening and Speaking B	本授業では、映画を題材にして、イギリス英語を中心にアメリカ英語他、多種多様な英語に触れ、日常生活の場面に応じた実際によく使う表現を学ぶ。受講生はプレゼンテーションの練習を通して、自分の意見や考えを人に伝え、同時に他人の意見を聞くことができることを到達目標とする。授業の進め方としては、グループワークまたはペアワークを通して、リスニングとスピーキングの基礎的な練習をし、アウトプットの実践を行う。また、毎回、映画の内容と単語の小テストを行う。	
	English Communication A	英語コミュニケーション力は、ただ発音よく流暢に英語を話す能力だけではない。あらゆるバックグラウンドを持った人々と積極的にコミュニケーションを図り、様々な戦略を用いて英語を話そうとする人が、国際的コミュニケーション能力が高いとされる。本授業は、自分の意見やアイデアを積極的に発信する態度を育成し、効果的に伝える能力を身につける。異なる文化やバックグラウンドを持つ人々とのコミュニケーション能力を向上させるために、会話的な戦略を学び、ペアワークやグループワークを取り入れて実践的訓練を行う。また話す力だけでなく、書く力も高め、バランスよくコミュニケーション能力を身につける。	
	English Communication B	本授業では、英語の4技能であるリーディング、ライティング、リスニング、スピーキングのスキルを高め、総合的な英語のコミュニケーション能力の更なる向上を目指す。授業では、グループワークまたはペアワークの機会を適宜設けながら積極的にアウトプットの実践を行う。受講生はこれまで学んできた英語のスキルを駆使し、わかりやすい英語で自信を持って自分の意見や考えを伝えられるようになることを到達目標とする。	
	Advanced English (Discussion)	本授業では、さまざまなトピックを使い、課題や論点に対して、具体的な解決方法や意見を英語でディスカッションする為のテクニックやスキルの向上・修得を目的として指導を行う。授業で行われる実践的な演習を通して、ディスカッションに積極的に参加するための表現やテクニックを学修することができるだけでなく、英語で他者の意見を理解し、英語で説得力のある意見を述べる為のコミュニケーション能力を向上させることができる。演習を行う際には、講師が話の内容を整理し、授業内で活発に意見交換を行えるように発言を促進させる。	
	Advanced English (Presentation)	本授業では、さまざまなテーマでプレゼンテーションを行い、自分の知識や意見を効果的に伝えるための英語によるプレゼンテーション・スキルを学修することを目的とする。学生は、基礎的なプレゼンテーションの手法を学修するだけでなく、授業内で行われる実践演習を通して、コミュニケーション、ボディランゲージやジェスチャー、質疑応答への対応等、聴衆を惹きつけるテクニック等の修得を目指す。また、授業内で行う実践的な演習や、プレゼンテーションの相互評価を行うことにより、他者に対して適切な評価や意見ができるようになる。	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際共創学部国際共創学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科専攻科目 (C) 発展科目 (2) 英語アドバンスト科目	Advanced English (Debate)	<p>本授業は、学生の考えや意見を説得的、且つ積極的に英語で表現するコミュニケーション能力の向上・修得を目的とする。学生は、結論に対しての根拠を示す前提や事実の組み立てと詳細な表現を構築し、複数の視点からトピックを捉えながら論点を展開し、英語で自然な議論が行えることを目指す。複雑なテーマを幅広く、且つ分析する能力を高めながら、自身の意見を精査し、他者の意見に英語で反論する能力を身につけることができる。ディベートに効果的に参加するための表現やテクニックを学び、授業で練習し、講師の進行・指導のもと、授業では他者とディベートの演習を行う。</p>	
	Urban Geography	<p>It is difficult to provide a clear definition of city; however, it is possible to say that agglomeration of population and industry in an area is thought as one definition of city. City has a centrality that attracts much inflow of commuters from suburb areas. This class investigates the factor of the formation and growth of specific cities in some areas and learns the mechanism of urban area economic growth from the viewpoint of urban geographical analytical framework. The object of this class is to understand the outline of urban geography and explain the mechanism of origin, expansion, and growth of city.</p> <p>都市を明確に定義することは困難であるが、人口や産業が集積している地域を都市と定義する。都市は、郊外から通勤者・通学者の流入があり中心性を持つ。この授業では、なぜ特定の都市が、成長し形成されるのか、要因をみていく。都市地理学の分析枠組みから都市の経済成長メカニズムを学ぶ。都市地理学の概要を理解し、都市の起源・拡大・成長のメカニズムを、受講者が説明できるようになることが、本授業の目的である。</p>	
	Regional Environment and Sustainability	<p>This lecture will introduce environmental initiatives in other countries, such as foreign countries, as well as in Japan, with regard to climate change adaptation, biodiversity conservation, energy security, sewage and waste management, and improving the built environment of urban slums, and will then introduce sustainability strategies for the region as a whole. The goal is to deepen understanding of environmental design and sustainability governance inside/outside of Japan. This lecture will focus on understanding local problems and solution efforts, plans and institutions, which are described in English, and theoretical frameworks and methodologies to discuss these issues. Therefore, the lectures themselves will be conducted in English, and discussions will also be conducted in English. In addition, through discussion of both foreign and domestic case studies, students will deepen their understanding of the characteristics of the Japanese case study and what is and is not consistent with ideas that are considered internationally advanced.</p> <p>本講義では、気候変動への適応、生物多様性の保全、エネルギーの安全保障、下水・廃棄物の管理、都市スラムの住環境改善などについての諸外国及び国内での環境への取り組み、さらには地域全体の持続可能性戦略について紹介した上で、国内外での環境デザインや持続可能性ガバナンスのあり方について、理解を深めることを目標とする。本講義では、英語で記載された現地での問題や解決への取り組み、計画や制度などに関する情報、理論的な枠組みや方法論などを、英語のまま理解することに重点を置く。そのため、講義そのものを英語で実施し、議論も英語で行う。また、海外と国内の事例を合わせて議論することを通して、日本の事例の特徴や、国際的には先進的とされている考え方と整合する点とそうでない点について理解を深める。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(国際共創学部国際共創学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科専攻科目 (C) 発展科目 (2) 英語アドバンスト科目	Development and Management	<p>To pursue value creation and problem solving, this lecture will provide a framework for thinking about the roles of entities, the perspectives, and methodologies of "projects" and "programs," the way of thinking about the subject as a "system" (systems thinking), and the way of "management" of projects and programs. The value creation through various types of development is carried out by the "public" sector, such as governments and municipalities, the "private" sector, such as enterprises, and the "community" sector. Development value is realized through the "management" of "projects" and "programs" that are organically linked projects. The lecture will examine the contents and relationships of these projects and programs using examples of concrete cases and will also provide discussion points for considering the future of society, cities and regions, their development, and the roles of each entity. Then, this lecture aims to provide participants with knowledge, perspectives, and frameworks to tackle with problem solving and value creation.</p> <p>本授業は、都市や地域の開発や課題解決のあり方として、主体(部門)の役割、対象を「システム」として見る考え方(システム思考)、価値創出事業を「プロジェクト」「プログラム」として見る視点、およびその「マネジメント」のあり方を考える枠組みを提供する。各種開発による価値創造は、政府や自治体といった「公」部門、企業等の「民」部門と、コミュニティなど「共」部門によりおこなわれる。そしてその「開発」が、「プロジェクト」やその有機的連携による「プログラム」の「マネジメント」を通じて実現される。講義ではこれらの内容、関わりを実際の取り組みの事例を用いて提示する。加えてこれからの社会や都市・地域や、その整備のあり方、各主体の役割を考える論点を提供し、受講者がこれらの知識と検討の視点、枠組みを獲得することを目的とする。</p>	
	Peace and Coexistence	<p>By providing the enrolled students with grounding knowledge about the history of international relations, the classic theories of International Relations (IR), and academic disputes regarding peacebuilding, this course purports to examine the following:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Under certain conditions, why do some nations wage civil wars or international wars while others do not? 2. Why do some countries cooperate with other countries while some other nations do not? 3. What should we, including civil society, do to maintain peace in the global community? <p>Through a series of lectures and in-class discussions, this course aims to help the students to understand current international affairs that could significantly impact our daily lives. This course also intends to develop skills to express opinions persuasively regarding international relations' historical and theoretical dimensions.</p> <p>本授業では、国際関係史、古典的な国際関係理論、平和構築をめぐる学説の基礎知識を修得することにより、以下の点を検討する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ある条件下で、内戦や国際戦争を起こす国と起こさない国があるのはなぜか? 2. なぜ、ある国は他国と協力し、ある国は協力しないのか? 3. 国際社会の平和を維持するために、私たち市民社会は何をすべきなのか? <p>本授業では、講義とクラスでのディスカッションを通じて、私たちの日常生活に大きな影響を与えうる現在の国際情勢を理解することを目的としている。また、国際関係の歴史的・理論的側面について、説得力のある意見を述べることができる能力を養うことを企図している。</p>	

授 業 科 目 の 概 要					
(国際共創学部国際共創学科)					
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
学科専攻科目	(C) 発展科目	(2) 英語アドバンスト科目	英語学概論	本授業では、英文法について、特に学修英文法との関連で、語彙論・統語論・意味論・語用論について学びつつ、英語の歴史的変遷、およびWorld Englishes に関する知識を深める。授業ではテキストを使用し、毎回のテーマに応じて、実例を示しながら、また受講者からも用例の提供を求めつつ、言語現象について議論することを通して分析能力を高める。また、分析力養成に資するツール(辞書・コーパス)利用の実践も行う。	
			英語音声学	本授業では、英語の音声に関する知識(音声学)を身につけるとともに、英語の母音・子音・音の脱落、同化、連結の現象を理解し、それらを実際に聞き取り、発音ができることを目指す。授業ではテキストを使用し、音声学(一部音韻論を含む)の知識について理論を学びつつ、毎回の授業で聞き取り、あるいは発音のチェックを行い、英語の4技能であるリスニング・スピーキングの運用能力の向上を図る。	
			英文法	本授業は、英文法を学ぶなかで英語による表現力への理解を深め、英語が使われている国・地域の文化について理解することを目的とする。授業では、テーマについての主要な解説を行い、試験やレポート等で受講生のテーマについての理解を確認する。また、毎回、テキストを用いて授業を行う。英文法の根幹を理解するとともに、扱われた内容から見る多様な文化、並びに英語で書かれた代表的な文章を学ぶ。	
			英語文学A	20世紀初頭、イギリス小説は多くの優れた作家を輩出するが、ことに1920年代はそれが顕著であった。本授業では、この時代を代表する5人の作家の短篇小説を精読し、当時の文化的・社会的様相を読み解く。授業では、実際に文学作品を読むために、どのような準備が必要かについて、辞書や参考文献の選択から活用方法にいたるまで、随時説明する。また、文学作品を読む上で必要な技法上の概念や方法、および作家の特質についても、適宜解説する。受講生自身が独力で作品を読み解き鑑賞することが最終的な目標であるため、その訓練として、毎回授業で分担箇所を決め、当該箇所について下調べの上、発表を行う。	
			英語文学B	本授業は、英語で書かれた文学を学ぶ中で、英語による表現力への理解を深めるとともに、英語が使われている国や地域の文化について理解することを目的とする。授業では、毎回テキストを使用し、テーマについての主要な解説を行い、試験やレポート等で受講生のテーマについての理解を確認する。文学作品における英語表現や、扱われた内容から見る多様な文化、並びに英語で書かれた代表的な文章を学ぶ。	
	(D) 演習科目	アカデミックスキルⅠ	本授業は、少人数で学ぶ双方向の授業とし、グループワークやディスカッション、プレゼンテーションを通じて、主体的に学ぶために必要な知識や技能、基礎力を身につけることを目的とする。具体的には、「論文の読み方」「オンラインジャーナルの活用」「レポートの作成方法」「引用文献・参考文献の書き方」などを通して、アカデミックスキルの基礎等を身につける。プレゼンテーションでは、パワーポイントを用いた発表を実施する。		
		アカデミックスキルⅡ	本授業は、少人数で学ぶ双方向の授業とし、「論文」「新聞記事」「企業情報」の検索をはじめ「インターネット」を活用した情報リテラシーについて、さらに実践的な知識や技能を身につけ、社会生活でも活用できるようにする。「電子書籍」や「オンラインジャーナル」の効果的な活用も学ぶ。また、学生自らがテーマに沿った情報収集や分析を行い、自分の考えや結論をグループワーク、ディスカッションを通じて表現する。発表では、パワーポイントやエクセル、ワードなどを使用してのプレゼンテーションを実施する。		
		演習Ⅰ	演習Ⅰでは指導教員の専門領域についてその概要を学び、専門領域に関する基礎知識を修得することを主たる目的とする。1年次、2年次前期に学んだ知識・技能を基盤として、学生が希望し選択する領域を専門とする指導教員から学ぶことによって、卒業研究に向けた基礎知識を修得していく。専門領域に関する基礎知識だけでなく、文献渉猟や執筆方法などの基礎的な研究手法や研究倫理なども学んでいく。また、少人数制のゼミ形式で実施することによって、グループワークなどを通じて、他者の意見を傾聴し、自らの意見を述べ、解決策を導き出すための基本的な研究姿勢を身につけていく。3年次、4年次の演習についても同一指導教員による演習を原則としており、継続的な研究の第一段階の役割を担うものと位置づけられる。		

授 業 科 目 の 概 要				
(国際共創学部国際共創学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
学科専攻科目	(D) 演習科目	演習Ⅱ	演習Ⅱでは、より専門的・実践的な内容について学び、卒業研究のテーマを具体的にしていくために、自発的に研究を深めていく。リサーチクエスションの設定やリサーチアンサーの導き方など、卒業論文執筆のための技能についても学んでいく。また、必要に応じて、フィールドワークの実施やゲストスピーカーの招聘を行い、実践的な学びも行っていく。演習Ⅰと同一指導教員による指導を原則とすることによって、継続的な研究の基盤の確立を担うものと位置づけられる。	
		演習Ⅲ	演習Ⅲでは、卒業研究における研究テーマ設定とその基礎研究を行い、専門知識をより高めていくことを主たる目的とする。研究テーマ案の報告やそれに対する他の学生とのディスカッション、卒業論文で取り組むテーマの大枠について決定していく。また、演習Ⅱと同様に、必要に応じてフィールドワークの実施やゲストスピーカーの招聘等を行い、実践的な学びをさらに深めていく。演習Ⅲは、自らの卒業研究に向けて、継続的な研究の確立を担うものと位置づけられる。	
		卒業研究Ⅰ	「卒業研究Ⅰ」では、自らが設定した卒業論文テーマについて研究を行い、指導教員からの指導、ゼミでの発表とディスカッションを踏まえて、テーマにおける物事や課題の本質を見抜く力(「洞察力」)、課題解決の筋道を立て提案する力(「構想力」)を養い、また、研究や調査、ディスカッションを通じて「共感力」「実践力」も養っていく。 「卒業研究Ⅰ」では設定したテーマに関する文献渉猟、リサーチギャップの明確化、仮説の設定などを通じて、卒業論文の内容を固めていくことを目的とする。また、必要に応じて、アンケート調査、インタビュー調査、フィールドワーク調査(実地調査)、統計調査等などの調査を指導教員の指導の下で実施し、卒業論文に必要なデータの収集を行う。このようなプロセスを通じて、「卒業研究Ⅱ」で執筆する卒業論文の基盤を確立させていくことを到達目標とする。	
		卒業研究Ⅱ	「卒業研究Ⅱ」では、「卒業研究Ⅰ」で自ら研究した内容を基礎として、実際に卒業論文の執筆に取り組み、内容等について指導教員の指導を受ける。指導教員からの指導、ゼミでの発表とディスカッションを踏まえて、テーマにおける物事や課題の本質を見抜く力(「洞察力」)、課題解決の筋道を立て提案する力(「構想力」)を確立し、研究や調査、ディスカッションを通じて「共感力」「実践力」も確立していく。 「卒業研究Ⅱ」では卒業論文の内容や進捗状況をゼミ内で報告し、指導教員による指導やゼミ内でのディスカッションを踏まえて、卒業論文を執筆していく。課題の設定と解決案の提案等の検証を繰り返しながら、卒業論文の内容を洗練し、完成させていく。卒業論文の執筆プロセスを通じて、「洞察力」「構想力」「共感力」「実践力」を確立させていくこと到達目標とする。	

学校法人大阪経済大学 設置認可申請等に関わる組織移行表

令和5年度	令和6年度			変更の事由
	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	
大阪経済大学				
経済学部				
経済学科	680	-	2,720	
経営学部第1部				
経営学科	430	-	1,720	
ビジネス法学科	200	-	800	
経営学部第2部				
経営学科	50	-	200	
情報社会学部				
情報社会学科	300	-	1,200	
人間科学部				
人間科学科	200	-	800	
計	1,860	-	7,440	
大阪経済大学大学院				
経済学研究科				
経済学専攻 (博士前期課程)	10	-	20	
経済学専攻 (博士後期課程)	5	-	15	
経営学研究科				
経営学専攻 (修士課程)	50	-	100	
経営情報研究科				
経営情報専攻 (修士課程)	20	-	40	
人間科学研究科				
臨床心理学専攻 (修士課程)	10	-	20	
人間共生専攻 (修士課程)	10	-	20	
計	105	-	215	
大阪経済大学				
経済学部				
経済学科	680	-	2,720	
経営学部第1部				
経営学科	430	-	1,720	
ビジネス法学科	200	-	800	
経営学部第2部				
経営学科	50	-	200	
情報社会学部				
情報社会学科	300	-	1,200	
人間科学部				
人間科学科	200	-	800	
<u>国際共創学部</u>				学部の設置（認可申請）
<u>国際共創学科</u>	<u>120</u>	-	<u>480</u>	
計	<u>1,980</u>	-	<u>7,920</u>	
大阪経済大学大学院				
経済学研究科				
経済学専攻 (博士前期課程)	10	-	20	
経済学専攻 (博士後期課程)	5	-	15	
経営学研究科				
経営学専攻 (修士課程)	50	-	100	
経営情報研究科				
経営情報専攻 (修士課程)	20	-	40	
人間科学研究科				
臨床心理学専攻 (修士課程)	10	-	20	
人間共生専攻 (修士課程)	10	-	20	
計	105	-	215	